

I-O DATA

**HDL-Z2WH シリーズ** すぐに取り出せる場所に保管してください  
**LAN DISK 管理マニュアル**

はじめに

初期設定

詳細設定

資料

# もくじ

# はじめに

## 注意事項など

本製品を使用する際の基本的な情報や注意事項です。必ずお読みください。

はじめに .....	3
安全のために .....	3
使用上のご注意 .....	5
箱の中には .....	7
動作環境 .....	7
オプション品について .....	8
各部の名称 .....	9

## 初期設定

本製品の設置方法などです。運用にあたって必要最小限の設定になります。

初期設定 .....	11
設定準備をする .....	11
初期設定をする .....	15
ユーザーを作成する .....	20
共有フォルダーを作成する .....	22
共有フォルダーにアクセスする .....	24
ネットワークドライブを割り当てる .....	25
スタートパッド .....	26
リモートデスクトップで接続する .....	27
電源を切る場合 .....	28

## 本製品を運用する際の詳細設定

初期設定の後に必要に応じてご確認ください。

詳細設定 .....	29
メディアサーバーを設定する .....	29
リモート Web アクセスを設定する .....	30
日時設定 .....	35
Windows Update .....	36
ボリュームのフォーマット .....	37
IP アドレス設定 .....	38
パスワード変更 .....	39
メール設定 .....	40
Func ボタン設定 .....	41
サーバーバックアップ設定 .....	42
回復する .....	45
アクセス許可 .....	47

## その他の情報

運用後に必要になる情報です。必要に応じてご確認ください。




資料 .....	48
カートリッジの増設方法 .....	48
ハードディスクが故障した場合 .....	50
出荷時状態に戻す .....	51
出荷時設定 .....	52
ランプの状態 .....	52
ログ、メール一覧 .....	52
ZWH Manager .....	53
VVAULT .....	55
ESET NOD32 アンチウイルス 90 日体験版 .....	61
Activelimage Protector .....	63
仕様 .....	65

アフターサービス .....	66
お問い合わせについて .....	66
修理について .....	67



## 安全のために


お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

### ● 警告および注意表示


 <b>危険</b>	この表示の注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険が生じます。
 <b>警告</b>	この表示の注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことがあります。
 <b>注意</b>	この表示の注意事項を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。


### ● 絵記号の意味

	禁止
	指示を守る


 **危険**

**本製品を修理・改造・分解しない**


 火災や感電、破裂、やけど、動作不良の原因になります。


 **警告**

**接触禁止**

 雷が鳴り出したら、本製品や電源ケーブルには触れないでください。感電の原因となります。


**故障や異常のまま、接続しない**

 本製品に故障や異常がある場合は、必ず接続している機器から取り外してください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。


 **ぬらしたり、水気の多い場所で使用しない**

- お風呂場、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。
- 水の入ったもの（コップ、花びんなど）を上に置かないでください。


**給電されている LAN ケーブルは絶対に接続しない**

 本製品に故障や異常がある場合は、必ず接続している機器から取り外してください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。


**本製品の小さな部品を乳幼児の手の届くところに置かない**

 誤って飲み込み、窒息するおそれがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、ただちに医師にご相談ください。


**本製品の取り付け、取り外し、移動は、必ずパソコン本体・周辺機器および本製品の電源を切り、コンセントからプラグを抜いてから行う**

 電源コードを抜かずに行うと、感電の原因となります。


**本製品の周辺に放熱を妨げるような物を置かない**

 火災の原因となります。

**煙がでたり、変なにおいや音がしたら、すぐに使用を中止する**


 そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

**決められた電源・ケーブルで使用する**


 所定以外の電源およびケーブルで、本製品を使用すると火災・感電の原因となります。

**警告 ●電源（ACアダプター・ケーブル・プラグ）について**


ACアダプターや接続ケーブルは、添付品または指定品のもの以外を使用しない

 ケーブルから発煙したり火災の原因になります。


添付のACアダプターや接続ケーブルは、他の機器に接続しない

 添付の電源ケーブルおよびACアダプターは本機専用です。他の機器に取り付けると、火災や感電の原因となることがあります。


AC100V（50/60Hz）以外のコンセントに接続しない

 発熱、火災の恐れがあります。


煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐにコンセントからプラグを抜く

 そのまま使用すると火災・感電の原因になります。


ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わない

 火災、感電の原因になります。


じゅうたん、スポンジ、ダンボール、発泡スチロールなど、保温・保湿性の高いものの近くで使用しない

 火災の原因になります。

ゆるいコンセントに接続しない


 電源プラグは、根元までしっかりと差し込んでください。根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントにはつながないでください。発熱して火災の原因になります。

電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らない


 電源プラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張るとケーブルに傷が付き、火災や感電の原因になります。

**注意**

本製品を踏まない


 破損し、ケガの原因となります。特に、小さなお子様にはご注意ください。

取り付け、取り外しの際は手袋をつける


 ハンダ付けの跡やエッジ部分などがとがっている場合があります。誤って触れると、けがをすおそれがあります。

**注意 ●電源（ACアダプター・ケーブル・プラグ）について**

人が通行するような場所に配線しない

 足を引っ掛けると、けがの原因になります。

熱器具のそばに配線しない

 ケーブル被覆が破れ、接触不良などの原因になります。

**使用上のご注意**

**【重要】データの保護について**

本製品は精密機器です。突然の故障等の理由によってデータが消失する場合があります。万一に備え、本製品内に保存された重要なデータについては、必ず定期的に「バックアップ」を行ってください。

本製品または接続製品の保存データの毀損・消失などについて、弊社は一切の責任を負いません。また、弊社が記録内容の修復・復元・複製などをすることもできません。なお、何らかの原因で本製品にデータ保存ができなかった場合、いかなる理由であっても弊社は一切その責任を負いかねます。

**バックアップとは**

本製品に保存されたデータを守るために、別の記憶媒体（HDD・BD・DVDなど）にデータの複製を作成することです。（データを移動させることは「バックアップ」ではありません。同じデータが2か所にあることを「バックアップ」と言います。）

万一、故障や人為的なミスなどで、一方のデータが失われても、残った方のデータを使えますので安心です。不測の事態に備えるために、必ずバックアップを行ってください。

**お手入れについて**

- 本体についた汚れなどを落とす場合は、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 洗剤で汚れを落とす場合は、必ず中性洗剤を水で薄めてご使用ください。
- ベンジン、アルコール、シンナー系の溶剤を含んでいるものは使用しないでください。
- 市販のクリーニングキットを使用して、本製品のクリーニング作業を行わないでください。故障の原因になります。

**本製品を廃棄や譲渡などされる際のご注意**

- ハードディスクに記録されたデータは、OS上で削除したり、ハードディスクをフォーマットするなどの作業を行っただけでは、特殊なソフトウェアなどを利用することで、データを復元・再利用できてしまう場合があります。その結果として、情報が漏洩してしまう可能性もありますので、情報漏洩などのトラブルを回避するために、データ消去のソフトウェアやサービスをご利用いただくことをおすすめします。
- ※ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくハードディスクを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。
- 本製品を廃棄する際は、地方自治体の条例にしたがってください。

**家庭環境で使用する場合のご注意**

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

## その他のご注意

- 動作中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切らないでください。故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。
- 増設用ハードディスクをはじめて本製品に接続して使用する場合は、必要に応じてフォーマットを行います。
- 本製品起動処理中は本製品の電源を切ることはできません。
- ファイルコピー中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切るとコピーの処理が正常に行われません。本製品や増設用ハードディスクのアクセスランプを確認の上、電源を切ってください。
- 本製品を DHCP サーバが存在するネットワークに接続しても、正常に IP アドレスを取得できない場合があります。その場合は、本製品の IP アドレスを固定に設定してご利用ください。
- 本製品はローカルネットワーク上でご利用ください。本製品にグローバル IP アドレスを割り当て、直接インターネットに公開すると非常に危険です。  
ルーターを設置するなどして、インターネットから攻撃を受けないようにするなど、お客様にてセキュリティ確保をお願いいたします。
- 本製品設定中は本製品の電源を切らないでください。
- 動作確認済み以外のソフトウェアは、インストールおよび利用しないでください。  
本製品の安定運用に影響を及ぼすおそれがあります。  
動作確認済みのソフトウェアは以下の弊社ホームページをご確認ください。  
[http://www.iodata.jp/pio/hdd/landisk\\_soft](http://www.iodata.jp/pio/hdd/landisk_soft)
- 本製品を以下のような機能を設定して、利用することはできません。
  - ファイヤウォール、VPN、Web キャッシュの役割
  - メールサーバー
  - 認証サーバー (ドメインコントローラー等)
  - ネットワーク・インフラストラクチャ・サービス (DNS、WINS 等)
  - ネットワーク負荷分散
  - クラスタリング
- 本製品に登録可能なユーザー数は OS の仕様により最大 10 ユーザーとなります。
- 本製品は「休止」「スリープ」には対応しておりません。
- 本製品のワークグループ名は変更できません。

## 箱の中には

- 本製品 (1 台)
- 電源ケーブル (1 本)
- AC アダプター (1 個)
- LAN ケーブル (1 本)
- ロックキー (2 個)
- 保証書 (1 枚)
- サポート DVD-ROM(2 層式: 1 枚)
- バックアップソフト [ActiveImage Protector Desktop Edition] CD-ROM (1 枚)
- 管理マニュアル (本書: 1 冊)

■ユーザー登録について  
シリアル番号 (S/N) は、本製品に貼られているシールに「ABC0987654ZX」のように印字してあります。  
シリアル番号 (S/N) は、ユーザー登録の際に必要です。  
<http://www.iodata.jp/regist/>  
▼こちらにシリアル番号 (S/N) をご記入ください。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

## 動作環境

本製品を使用できる環境は以下の通りです。お使いの機種や環境を再度ご確認ください。  
最新情報は弊社ホームページ <http://www.iodata.jp/> をご確認ください。

### 対応機種

LAN インターフェイスを搭載し、TCP/IP 通信が正常に動作する DOS/V マシン

### 対応 OS

- ・Windows® 7(32/64 ビット版)<sup>※1</sup>
  - ・Windows Vista®(32/64 ビット版)<sup>※1</sup>
  - ・Windows® XP SP3(32 ビット版)<sup>※1</sup>
  - ・Mac OS 10.5 以降<sup>※2</sup>
- ※1 Windows のリモートデスクトップでご利用の場合、Professional 以上のエディションが必要です。  
 ※2 コネクタの機能のうち「バックアップ機能」「セキュリティセンター」「重要な Windows サービス」などの監視機能はご利用いただけません。また、英語版のみご利用可能となります。  
 ※3 初期設定時には、Windows 環境が必要です。

### ご注意

- 本製品および別売オプション HDD「HDLZ-OP シリーズ」以外のご利用はサポート対応外となります。

### 対応外付けハードディスク

- 対応 USB ハードディスク  
RHD-UX、RHD4-UXE、RHD4-UXR、HDJ-U、HDJ-UT、HDJ-HSU
- 対応 eSATA ハードディスク  
RHD-UX、RHD4-UXE、RHD4-UXR

## オプション品について

詳細は弊社ホームページ <http://www.iodata.jp/> をご確認ください。

### カートリッジ

以下の交換用カートリッジをお買い求めください。

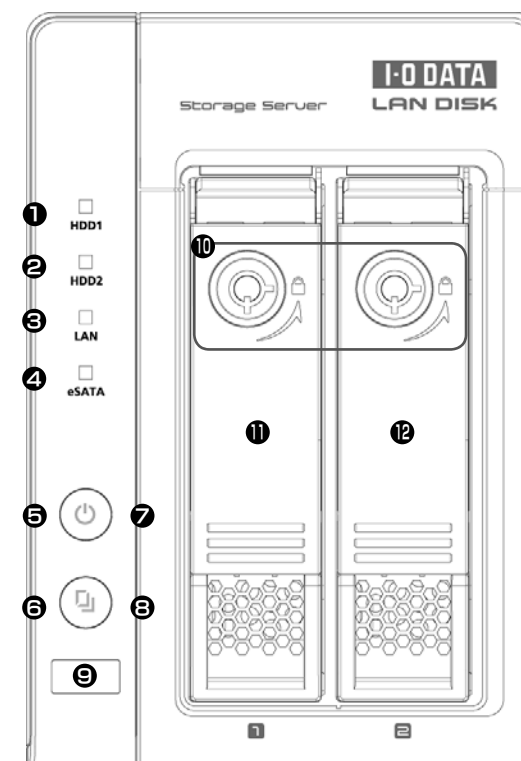
HDLZ-OP シリーズ

### ご注意

●オプション品のカートリッジには、システムはインストールされていません。

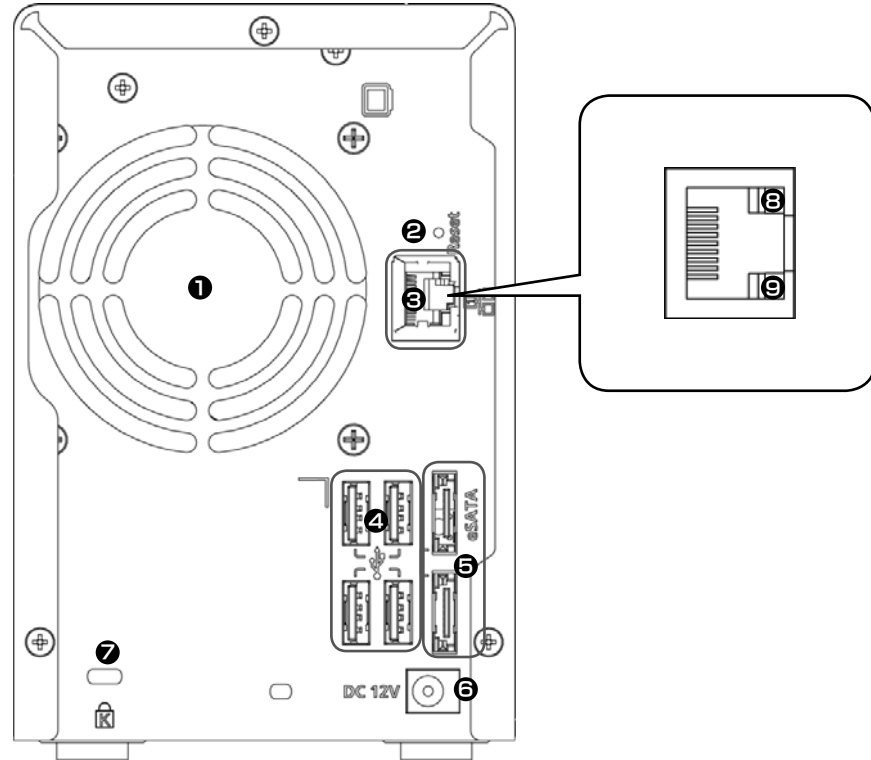
## 各部の名称

### 前面



① HDD1 ランプ	緑点灯	HDD 正常認識時
② HDD2 ランプ	緑点滅 消灯	HDD アクセス時 HDD 未接続時
③ LAN ランプ	橙点滅 消灯	LAN アクセス時 LAN 未接続時
④ eSATA ランプ	橙点滅 消灯	eSATA1/eSATA2 HDD アクセス時 eSATA デバイス未接続時 / 非アクセス時
⑤ 電源ボタン		短押し (1 秒程度) → 本製品の電源を ON/OFF します。 ※電源 ON の状態で 3 秒以上押し続けると強制電源 OFF になります。 3 秒以上電源ボタンを押し続けしないでください。
⑥ Func. ボタン		3 秒以上押し続けるとあらかじめ登録したプログラムを実行することができます。また、エラー発生時にブザーが鳴りつづけている時、2 秒以内押し続けるとブザーを停止します。
⑦ STATUS ランプ		本製品の状態を示します。 詳しくは、【ランプの状態】(52 ページ) をご覧ください。
⑧ USB ランプ	青点灯 消灯	USB デバイス認識時 USB デバイス未接続時
⑨ USB ポート1		増設用 USB ポートです。
⑩ カートリッジ固定ロック		HDD カートリッジをロック / アンロックします。
⑪ HDD1		HDD カートリッジを接続します。(空トレイです) 脱着レバーは、HDD カートリッジを取り出す際に利用します。
⑫ HDD2		HDD カートリッジを接続します。 脱着レバーは、HDD カートリッジを取り出す際に利用します。

背面



①ファン	冷却用ファンです。ふさがないでください。	
② Reset スイッチ	本製品の [IP アドレス] [DNS サーバー] 設定を初期化します。 (ハードディスク内のデータは残ります) 本製品が起動している状態で5秒以上押しと初期化されます。 また、押しながら電源を入れるとリカバリーモードで起動します。	
③ LAN ポート1	添付のLANケーブルを接続します。	
④ USB ポート2~5	増設用ハードディスクなどを接続します。	
⑤ eSATA ポート1、2	増設用ハードディスクなどを接続します。	
⑥ DC-IN	添付のACアダプターを接続します。	
⑦セキュリティスロット	盗難防止用のロックケーブルを取り付けることができます。	
⑧ ACT/LINK ランプ	橙点灯	LINK 中
	橙点滅	データを送受信中
	消灯	未接続
⑨ 1000/100/10 ランプ	緑点灯	1000BASE-T で接続中
	赤点灯	100BASE-TX で接続中
	消灯	未接続、または10BASE-T で接続中

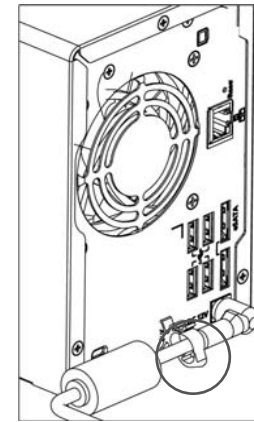
# 初期設定

はじめに

## 設定準備をする

### ステップ1 AC アダプター / 電源ケーブル を取り付ける

- 1 添付の AC アダプターを本製品の [DC-IN] に接続します。  
(添付の電源ケーブルは、AC アダプターに接続してください。)
- 2 図のようにケーブルに付属の抜け防止クリップを本製品背面に装着します。

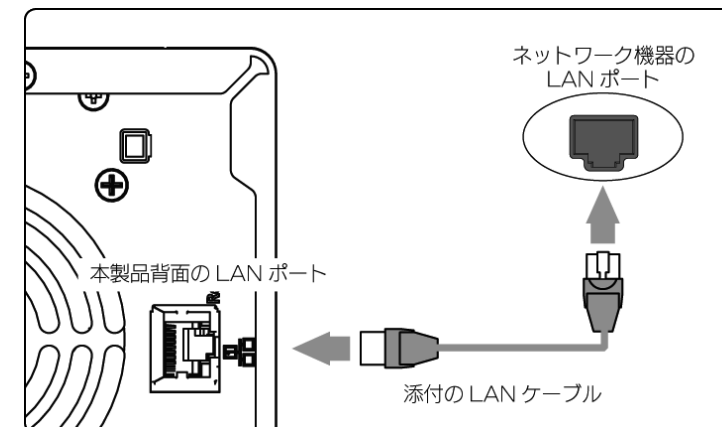


初期設定

詳細設定

### ステップ2 ネットワークにつなぐ

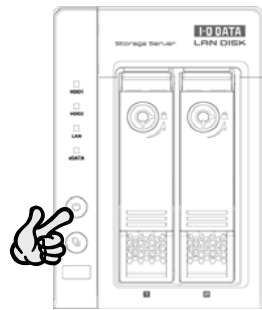
- 1 本製品の LAN ポート 1 に添付の LAN ケーブルを接続し、もう一方をネットワーク機器に接続します。(LAN ポート 2 は使用できません。)



資料

### ステップ 3 電源を入れる

- 1 本製品の電源ケーブルをコンセントに接続します。
- 2 本製品前面の電源ボタンを押します。  
しばらくして「ピー」と鳴ったら起動完了です。



#### ご注意

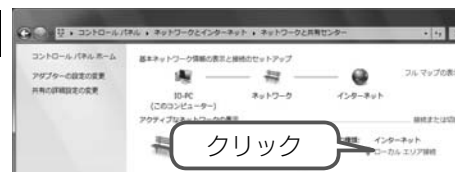
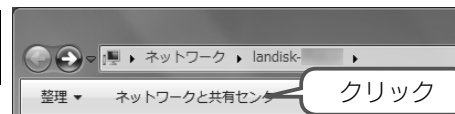
- 動作中にシャットダウンを完了せずに、電源ケーブルを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データが消失する恐れがあります。電源の切り方については、【電源を切る場合】(28 ページ)をご覧ください。
- 必ず、LAN ケーブルが確実に接続されていることを確認してから本製品の電源を入れてください。LAN ケーブルを接続する前に本製品の電源を入れると、正しくネットワークに参加できなくなります。

### ステップ 4 設定用パソコンの IP アドレスを自動取得に変更する

すでに自動取得に設定されている場合は、【初期設定をする】(15 ページ)へお進みください。

※ Windows 7 の例です。Mac OS の場合は、14 ページをご覧ください。

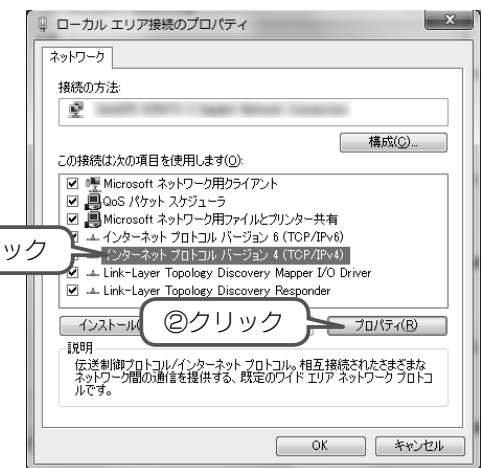
- 1 [スタート] → [コンピューター] → [ネットワーク] をクリックします。
- 2 [ネットワークと共有センター] をクリックします。
- 3 [ローカルエリア接続] をクリックします。



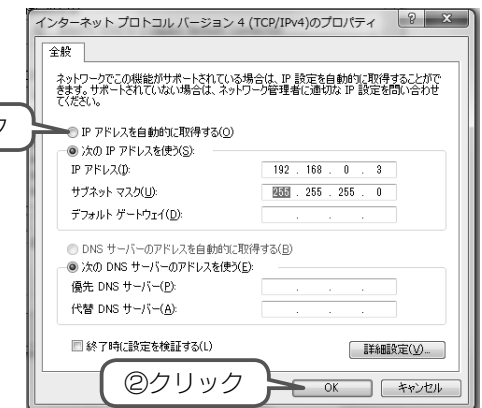
- 4 [プロパティ] をクリックします。



- 5 [インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)] を選択し、[プロパティ] をクリックします。



- 6 [IP アドレスを自動的に取得する] にチェックし、[OK] ボタンをクリックします。



以上で、設定準備は完了です。画面を閉じてください。  
次に【初期設定をする】(15 ページ)へお進みください。

## 参考 Mac OS の場合

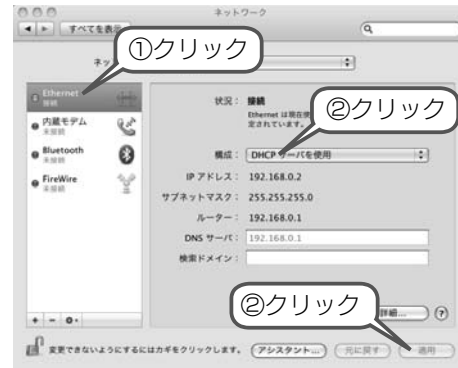
① [アップルメニュー] → [システム環境設定] をクリックし、[ネットワーク] を選択します。

② [ネットワーク] を開きます。

③ 左の欄で [Ethernet] を選択します。

④ [構成] を [DHCP サーバを使用] に変更します。

⑤ [適用] ボタンをクリックします。



以上で、設定準備は完了です。

画面を閉じて、パソコンを再起動してください。

# 初期設定をする

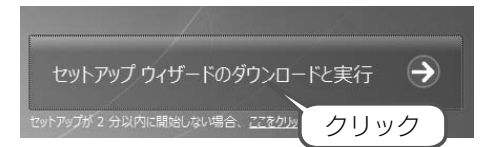
## ステップ1 初期設定をする

パソコンから本製品にアクセスし、本製品の初期設定をします。

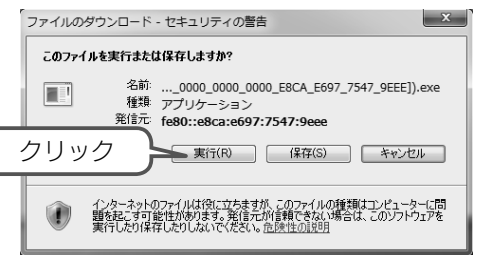
2 台目以降のパソコンからは初期設定は不要です。【ステップ2 コネクタをインストールする】(17 ページ) へお進みください。

**1** Web ブラウザーを使用し、以下の URL にアクセスします。  
<http://hdl-zwh/connect>  
 ※起動までに時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。

**2** [セットアップウィザードのダウンロードと実行] をクリックします。



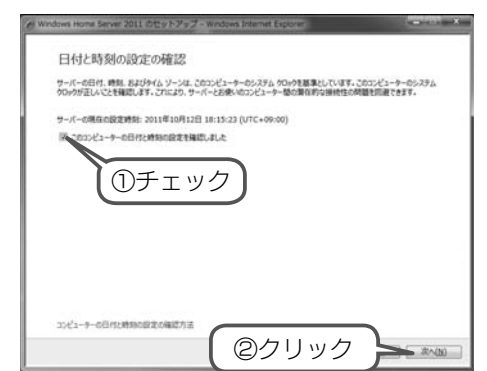
**3** [実行] をクリックします。



**4** 各種設定をして、[次へ] ボタンをクリックします。

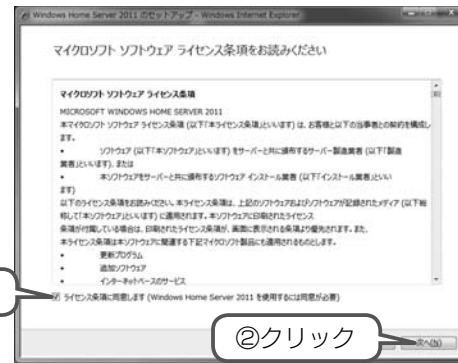


**5** 時刻を確認し、問題なければ [このコンピューターの日付と時刻の設定を確認しました] にチェックし、[次へ] ボタンをクリックします。

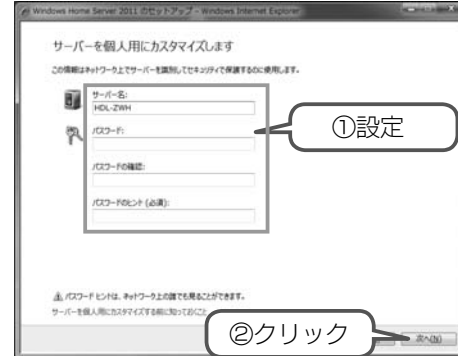




6 [ライセンス条項に同意します] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックします。



7 サーバー設定を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。  
※パスワードは、8文字以上で、「大文字」、「小文字」、「数字」、「記号」のうち、少なくとも3種類を含む必要があります。初期設定完了後はダッシュボードで変更できます。パスワードの変更手順は、【パスワード変更】(39ページ)をご覧ください。



**ご注意**  
●同一ネットワーク上に本製品を複数台設置する場合は、他の製品と重複しないようにサーバー名を変更してください。  
●ここで設定するパスワードは、コネクタやリモートデスクトップへのアクセス時や、すべての共有（全員共有、ユーザー共有）にアクセスする権限を持っています。

8 自動更新の方法を選択します。  
→設定を行います。しばらくお待ちください。



9 [接続] ボタンをクリックします。



以上で初期設定は完了です。

## ステップ2 コネクタをインストールする

設定用パソコンにコネクタをインストールすると、自動バックアップ、ネットワーク正常性の監視、管理コンソールの利用など、本製品と連携した各種の機能を利用することができます。  
なお、コネクタのインストールには、ローカル管理者権限が必要です。

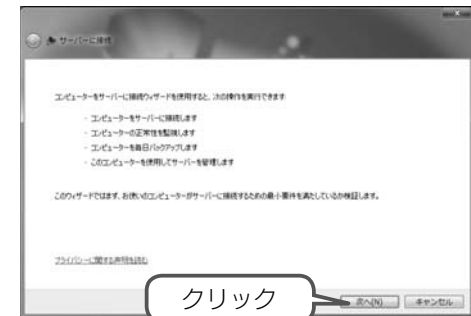
※ Windows 7 の例です。Mac OS の場合は、19 ページをご覧ください。

1 Web ブラウザーを使用し、以下の URL にアクセスします。  
`http://サーバー名/connect`

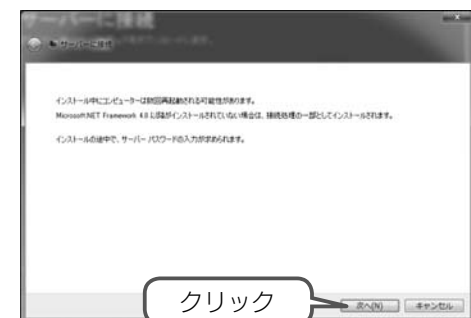
2 [コンピューターをサーバーに接続] ページから、Windows 用のコネクタインストールプログラムをダウンロードします。

3 ダウンロードしたコネクタのインストールプログラム (ComputerConnector(IP アドレス).exe) を実行します。

4 [次へ] ボタンをクリックします。



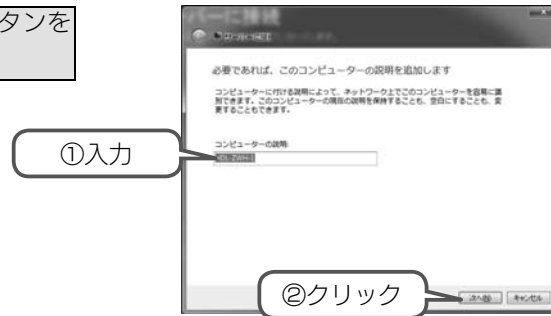
5 [次へ] ボタンをクリックします。



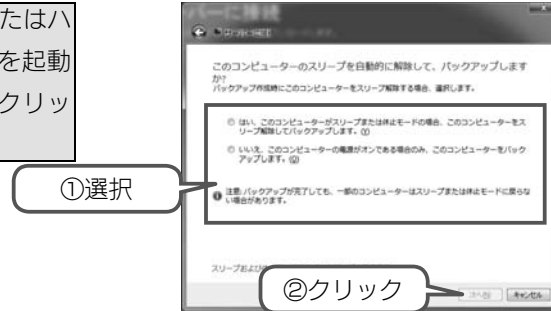
6 【初期設定をする】の手順7で登録したパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



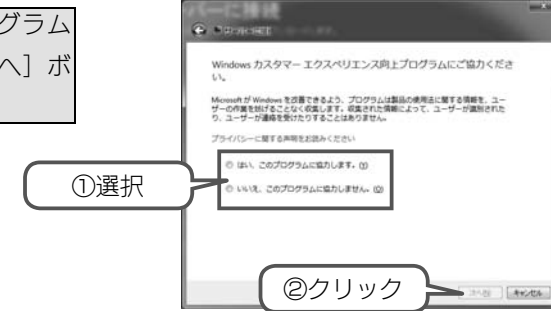
**7** 必要に応じて説明を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



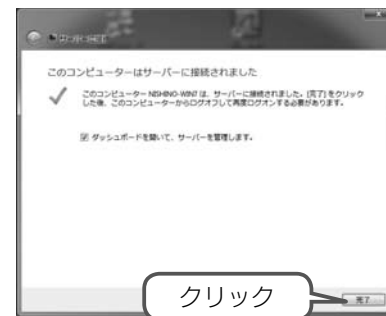
**8** 自動バックアップ時、スリープモードまたはハイバネートモードのクライアント PC を起動するか否かを選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



**9** カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (GEIP) への参加の有無を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



**10** [完了] ボタンをクリックします。



これでコネクタのインストールは完了です。

### 参考 Mac OS でインストールする場合

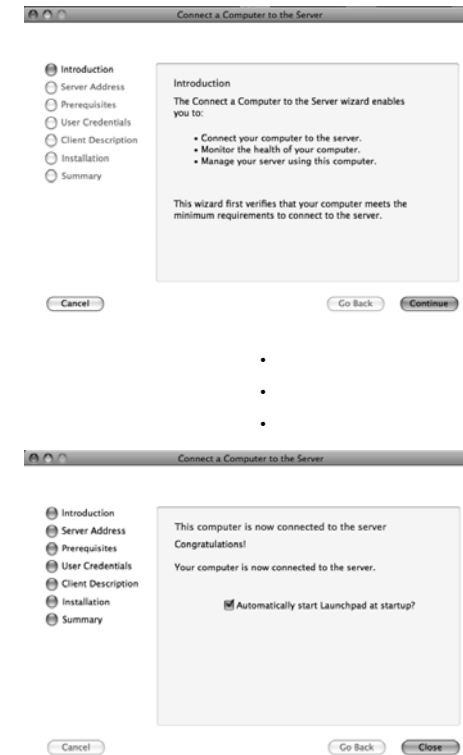
Mac OS でコネクタをインストールする場合は、以下の手順にしたがってください。  
 ※ Mac OS 版コネクタは英語版のみの提供となります。また、Windows 版に比べ機能が制限されています。  
 (「ファイル共有」、「リモート web アクセス」のみ可能です。)

① Windows 環境で Web ブラウザーを使用し、以下の URL にアクセスします。  
<http://hdl-zwh/connect>

② [コンピューターをサーバーに接続] ページから、Mac OS 用のコネクタのインストールプログラムをダウンロードします。

③ ダウンロードしたコネクタのインストールプログラム (MacConnector.dmg) を、Mac OS 上で実行します。

④ 画面にしたがって、サーバー名、コンピューター名、パスワード、コンピューターの説明を設定します。



以上でインストールは完了です。

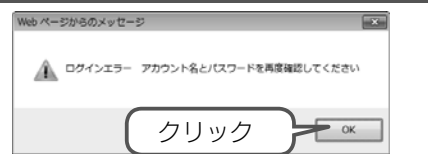
# ユーザーを作成する

※本機能は、Windows からのみ設定できます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Windows Home Server 2011] → [Windows Home Server 2011 ダッシュボード] をクリックします。  
初期設定で設定した本製品のパスワードを入力し、[→] をクリックします。

## ご注意

- ダッシュボード起動時に、右のような画面が表示された場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。(この画面が表示されても特に問題はありません。)



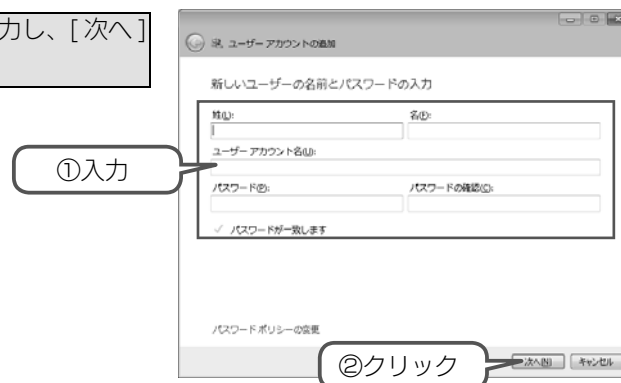
- 2 [ユーザー] をクリックします。



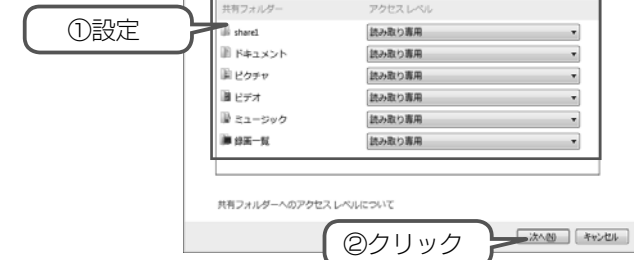
- 3 [ユーザーアカウントの追加] をクリックします。



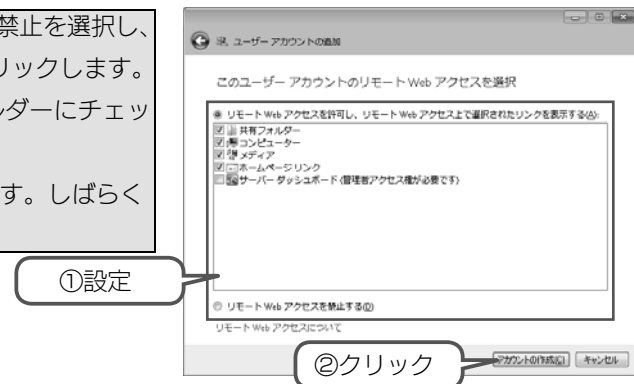
- 4 ユーザーの名前やパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



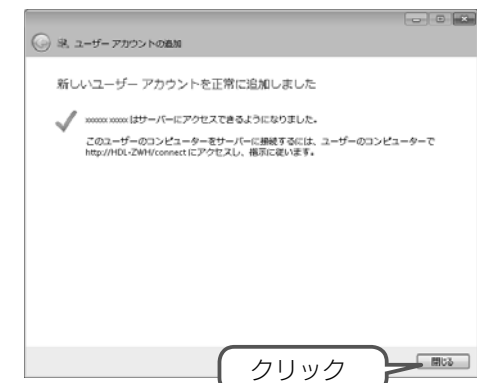
- 5 各共有フォルダーのアクセスレベルを設定して、[次へ] ボタンをクリックします。



- 6 リモート Web アクセスを許可 / 禁止を選択し、[アカウントの作成] ボタンをクリックします。許可する場合は、許可するフォルダーにチェックをつけます。  
→ユーザーアカウントを作成します。しばらくお待ちください。



- 7 [閉じる] をクリックします。



これで、ユーザーの作成は完了です。

はじめに

初期設定

詳細設定

資料

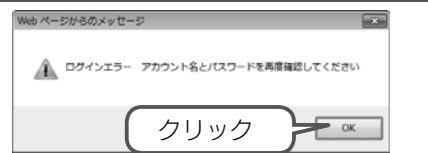
# 共有フォルダーを作成する

※本機能は、Windows からのみ設定できます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Windows Home Server 2011] → [Windows Home Server 2011 ダッシュボード] をクリックします。  
初期設定で設定した本製品のパスワードを入力し、[→] をクリックします。

## ご注意

- ダッシュボード起動時に、右のような画面が表示された場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。  
(この画面が表示されても特に問題はありません。)



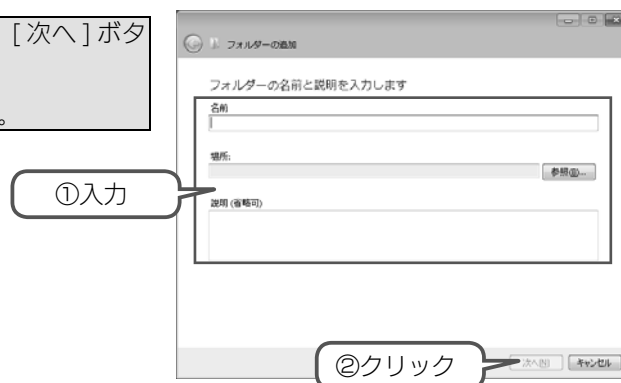
- 2 [サーバーフォルダーとハードドライブ] をクリックします。



- 3 [フォルダーの追加] をクリックします。



- 4 共有フォルダーの名前を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。  
※必要に応じて他の項目も入力します。



- 5 作成する共有フォルダーにアクセスできるユーザーを選択します。

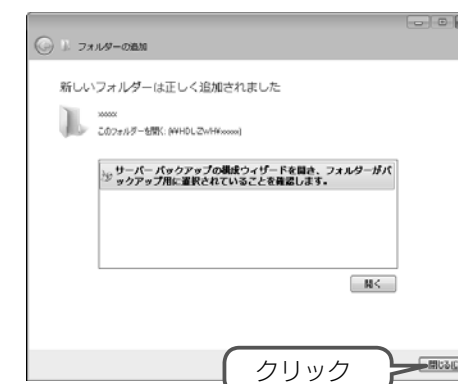


## 参考

- 手順5で [特定のユーザー] を選択した場合、各ユーザーのアクセスレベルを選択して、[フォルダーの追加] ボタンをクリックします。  
アクセスレベルは、あとで [プロパティ] から変更できます。



- 6 [閉じる] をクリックします。



これで、共有フォルダーの作成は完了です。

## 共有フォルダーにアクセスする

本製品の<サーバー名>を検索することでアクセスできます。

また、コネクタをインストールしたクライアント PC では「スタートパッド」からでもアクセスできます。(詳しくは、【スタートパッド】(26 ページ)をご覧ください。)

### Windows からアクセスする

- 1 ● Windows 7、Vista の場合  
[スタート]をクリックし、[プログラムとファイルの検索]をクリック後、  
「¥¥<サーバー名>」と入力し、検索します。  
● Windows XP の場合  
[スタート] → [マイネットワーク] → [コンピュータの検索] をクリック後、  
「¥¥<サーバー名>」と入力し、検索します。
- 2 検索された<サーバー名>を選択します。  
→本製品の共有フォルダーの一覧が表示されます。

正常に共有フォルダーのウィンドウが表示されたら、共有フォルダーとして使用できます。

### Mac OS からアクセスする

- 1 [移動]メニュー→[サーバへ接続]をクリックします。
- 2 [サーバへ接続]画面が表示されますので、以下を[サーバーアドレス]へ入力後、[接続]ボタンをクリックします。  
smb://<サーバー名>/
- 3 [登録ユーザ]を選択し、ユーザー名、パスワードを入力して、[接続]をクリックします。

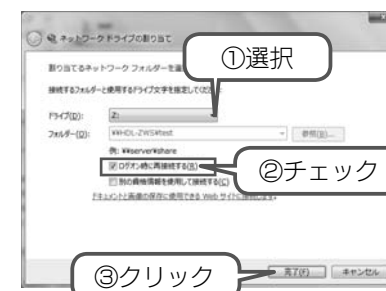
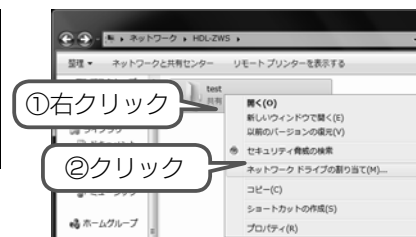
正常に共有フォルダーのウィンドウが表示されたら、共有フォルダーとして使用できます。

## ネットワークドライブを割り当てる

本製品をネットワーク上から参照する際に、ネットワークドライブとして割り当てておくことができます。

※ Windows のみで設定できます。

- 1 ネットワークに接続されているパソコンから、本製品の共有フォルダーを表示後、右クリックし、表示されたメニューの[ネットワークドライブの割り当て]をクリックします。
- 2 ネットワークドライブを割り当てます。  
①ドライブで本製品に割り当てる文字を選びます  
②[ログオン時に再接続する]にチェックを入れます。  
③[完了]ボタンをクリックします。



これでネットワークドライブの割り当ては完了しました。  
[コンピューター]などを開き、割り当てられたドライブが認識されていることをご確認ください。

# スタートパッド

1 [スタート]→[すべてのプログラム]→[Windows Home Server 2011] →[Windows Home Server 2011 スタートパッド] をクリックします。

2 本製品に登録したユーザーのユーザー名とパスワードを入力し、[→]をクリックします。

## ご注意

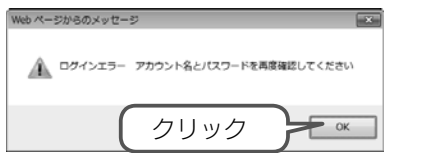
- スタートパッドを利用するためには、事前にユーザー登録が必要です。  
【ユーザーを作成する】(20 ページ) をご覧ください。

3 スタートパッドが起動しますので、操作を選択します。

バックアップ	バックアップの設定を行います。
リモート Web アクセス	リモート Web アクセスを行います。
共有フォルダー	共有フォルダーを開きます。
ダッシュボード	ダッシュボードを開き各種設定を行います。

## ご注意

- ダッシュボード起動時に、右のような画面が表示された場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。(この画面が表示されても特に問題はありません。)



## 参考 Mac OS の場合

※Mac OS 版コネクタは英語版のみの提供となります。また、Windows 版に比べ機能が制限されています。

Backup	バックアップの設定を行います。
Remote Web Access	リモート Web アクセスを行います。
Shared Folders	共有フォルダーを開きます。



# リモートデスクトップで接続する

Windows のリモートデスクトップで、本製品に接続する方法を説明します。

## ご注意

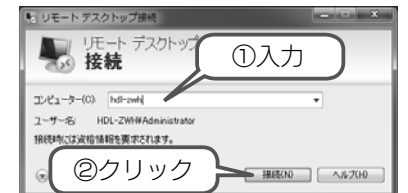
- リモートデスクトップ接続は、特定の設定変更時のみご利用ください。通常の操作・設定はダッシュボード接続をご利用ください。

1 本製品の電源が ON になっていることを確認します。

2 本製品と同じネットワーク上に接続された Windows パソコンを起動します。

3 [スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[リモートデスクトップ接続] をクリックします。

4 [コンピューター] で本製品のコンピューター名 (出荷時「HDL-ZWH」) を入力し、[接続] ボタンをクリックします。

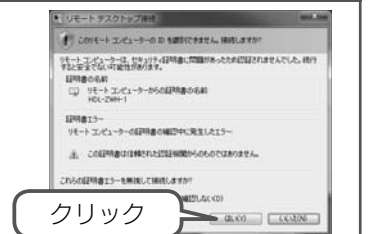


5 ログオン画面が開きますので、[別のアカウントを使用] を選択し、以下の [ユーザー名] と [パスワード] を入力し、[OK] ボタンをクリックします。  
ユーザー名: Administrator  
パスワード: 本製品のパスワード  
出荷時パスワードは「Admin」です。  
初期設定がお済みの場合は、サーバーに設定したパスワードを入力してください。



## ご注意

- 右のような画面が表示された場合は [はい] ボタンをクリックしてください。



ログオンが成功すると、初期画面が開きます。

## 電源を切る場合

本製品の電源を切る場合は、以下のいずれかの手順にしたがってください。

### ご注意

- 外付けハードディスクやプリンターがある場合は、本製品の電源を切ってから、外付けハードディスクやプリンターの電源を切ってください。
- 長期間使用しない場合は、電源ケーブルをコンセントから外しておくことをおすすめします。

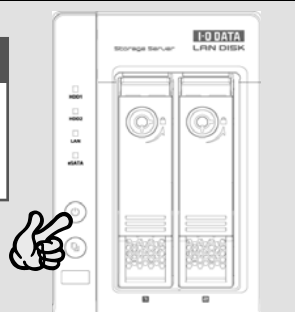
## 本製品の電源ボタンでシャットダウンする場合

本製品前面の電源ボタンを短押し（1 秒程度）します。

### ご注意

- 電源ボタンを長押し（3秒以上）しないようご注意ください。  
3 秒以上押した場合、強制電源断状態になり、ハードディスクやシステムに重大な障害が発生する可能性があります。

シャットダウン処理が終了すると、自動的にランプが消灯します。



### ご注意

- 本製品がロック状態になっていると、電源ボタンを押してもシャットダウンできない場合があります。  
その場合は、USB キーボードでロックの解除を行ってから電源ボタンを押してください。

## ダッシュボードからシャットダウンする場合

① [サーバーの設定] をクリックします。



②シャットダウンボタンから、本製品をシャットダウンします。



## 詳細設定

### 参考

- 本書に記載のない機能など詳しくは、[スタート]→[ヘルプとサポート]をご覧ください。

## メディアサーバーを設定する

メディアサーバー機能は、出荷時設定で有効になっています。  
また、次のファイルのストリーミングに対応します。

- Windows Media Format (.asf, .wma, .wmv, .wmt)
- Audio Visual Interleave (.avi)
- Moving Pictures Experts Group (.mpeg, .mpg, .mp3)
- Musical Instrument Digital Interface (.mid, .midi, .rmi)
- Audio for Windows (.wav)
- CD Audio Track (.cda)

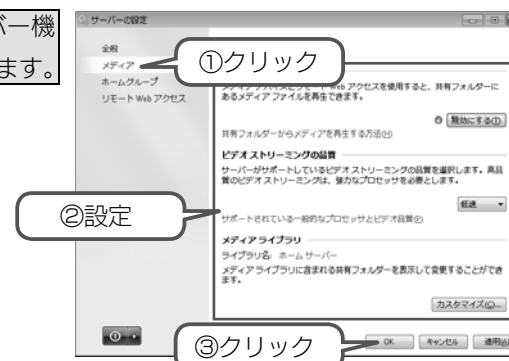
### ご注意

メディアサーバー機能では、地デジ放送などのコピープロテクトされたコンテンツを共有することはできません。

1 ダッシュボードの [サーバーの設定] をクリックします。



2 [メディア] をクリックし、メディアサーバー機能の設定をして、[OK] ボタンをクリックします。



これで設定は完了です。

# リモート Web アクセスを設定する

## リモート Web アクセスとは?

リモート Web アクセスとは、インターネット経由で本製品内のファイルや、LAN 内のパソコンのデータなどへアクセスする機能です。

例えば、外出先から本製品内の動画を再生することができます。

ホームメディアリンク機能は、お客様のご利用環境、通信環境、接続回線の混雑状況により映像が乱れる、途切れる、見えない等の品質劣化が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。

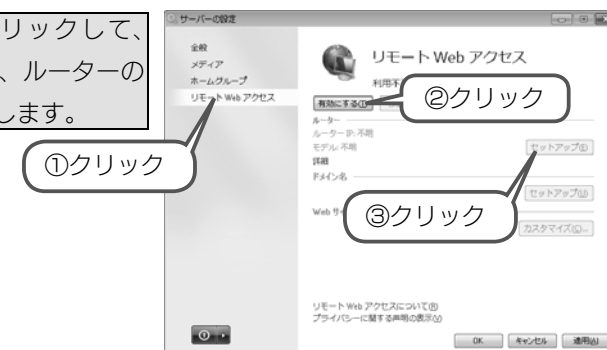
## [ステップ1] リモート Web アクセスを有効にする

リモート Web アクセスは、出荷時設定で無効に設定されています。

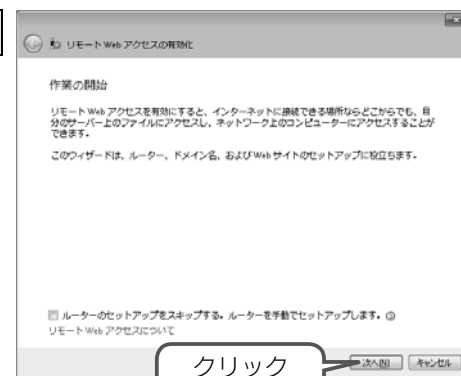
1 ダッシュボードの [サーバーの設定] をクリックします。



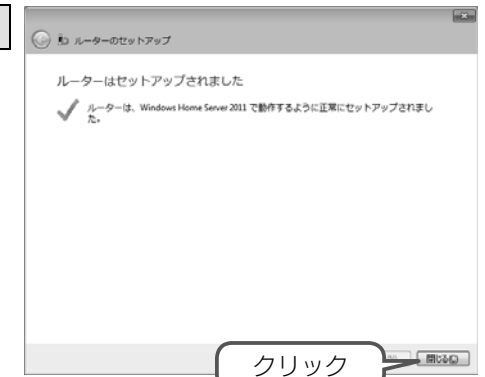
2 [リモート Web アクセス] をクリックして、[有効にする] ボタンをクリックし、ルーターの [セットアップ] ボタンをクリックします。



3 [次へ] ボタンをクリックします。



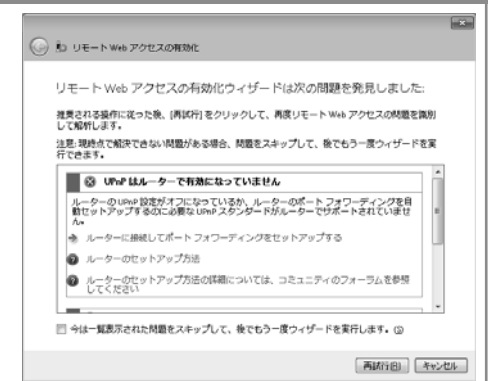
4 [閉じる] ボタンをクリックします。



## 参考

●設定できない場合は右の画面が表示されます。  
この場合は、手動でルーターの以下のポートをポートフォワード設定してください。

- ・ポート 80 (HTTP)
- ・ポート 443 (HTTPS)



## [ステップ2] ドメイン名を登録する

リモート Web アクセスを利用するには、事前にドメイン名を登録しておく必要があります。ここでは、Windows Live でドメイン名を取得する方法を説明しています。

1 ダッシュボードの [サーバーの設定] をクリックします。

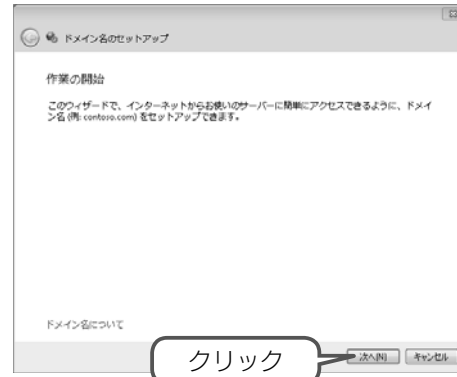


2 [リモート Web アクセス] をクリックして、ドメイン名の [セットアップ] ボタンをクリックします。

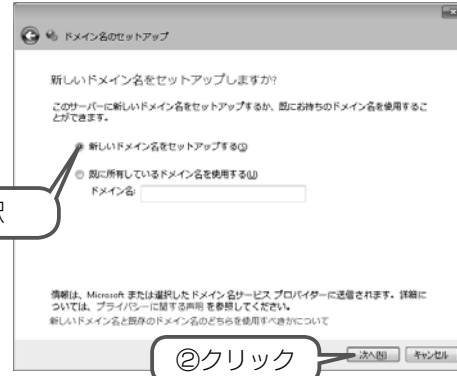




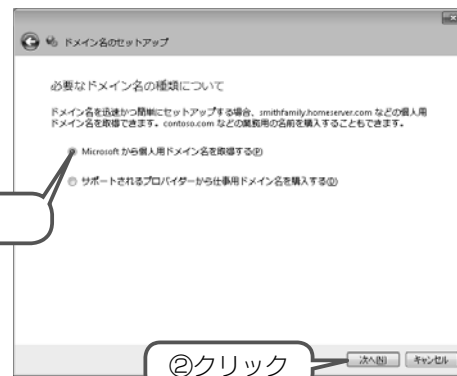
3 [次へ] ボタンをクリックします。



4 [新しいドメイン名をセットアップする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。  
※すでにドメイン名を取得済みの場合は、ドメイン名を入力してください。

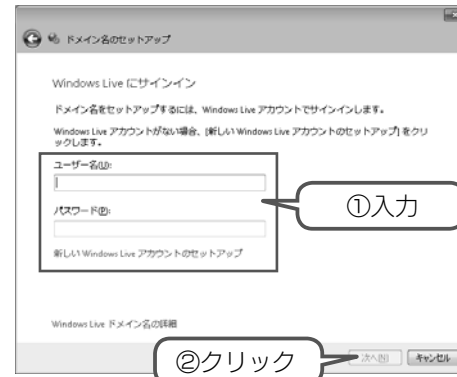


5 [Microsoft から個人用ドメインを取得する] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

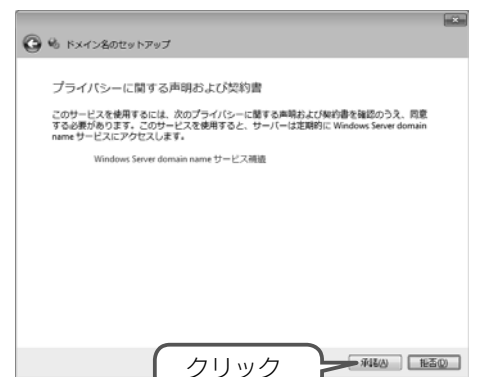


6 Windows Live ID のユーザー名とパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックします。

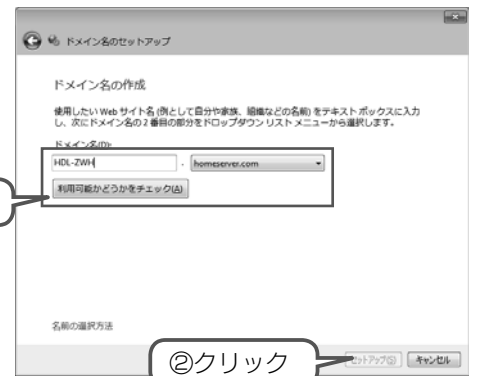
**参考**  
● Windows Live ID をお持ちでない場合は、[パスワード] 下の [新しい Windows Live アカウントのセットアップ] をクリックして、アカウントを取得してください。



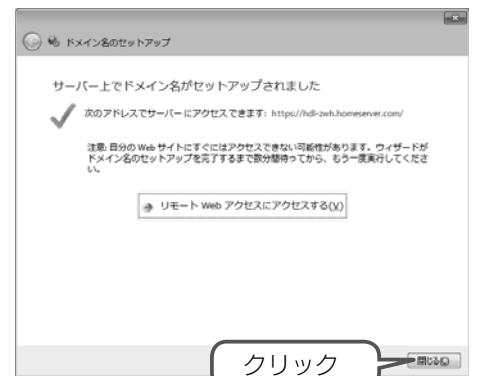
7 [承諾] ボタンをクリックします。



8 ドメイン名を入力し、[セットアップ] ボタンをクリックします。  
→ドメイン名を登録します。しばらくお待ちください。





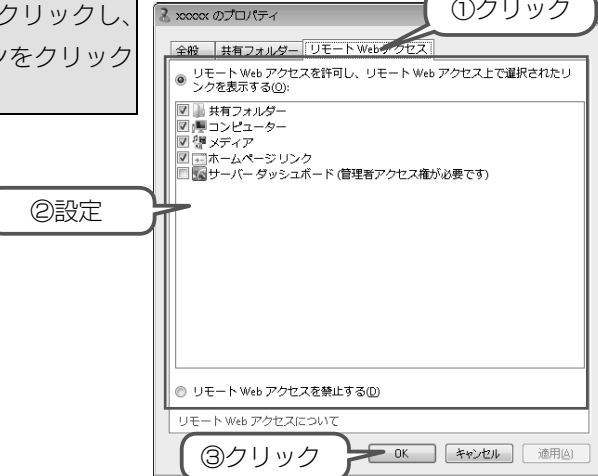
9 [閉じる] ボタンをクリックします。



これで、ドメイン名の登録は完了です。

### [ステップ3] アクセス許可を設定する

ユーザーにより、リモート Web アクセスの使用許可 / 拒否の設定ができます。

- 1 ダッシュボードの [ユーザー] をクリックします。  

- 2 アクセス設定をするユーザーを選択して、[アカウントプロパティの表示] をクリックします。  

- 3 [リモート Web アクセス] タブをクリックし、アクセス設定をして、[OK] ボタンをクリックします。  



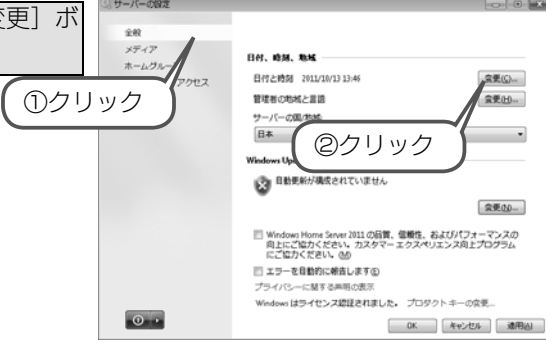


これで、アクセス許可設定は完了です。

**ご注意**

- リモート Web アクセスの [コンピューター] を利用するには、追加設定として [コンピューターアクセス] タブで、リモートアクセスを許可するクライアント PC を選択する必要があります。

## 日時設定

出荷時設定でインターネットを利用して時刻同期する機能 (NTP 機能) が有効になっています。手動で設定する必要がある場合は、以下の手順で行ってください。

- 1 ダッシュボードの [サーバーの設定] をクリックします。  

- 2 [全般] をクリックし、日付と時刻の [変更] ボタンをクリックします。  

- 3 [日付と時刻の変更] ボタンをクリックします。  

- 4 日付と時刻を設定し、[OK] ボタンをクリックします。  


これで設定は完了です。

# Windows Update

Windows Update を行うと、本製品にインストールされている OS の既知の脆弱性に対する最新のセキュリティパッチがインストールされます。必要に応じて行ってください。

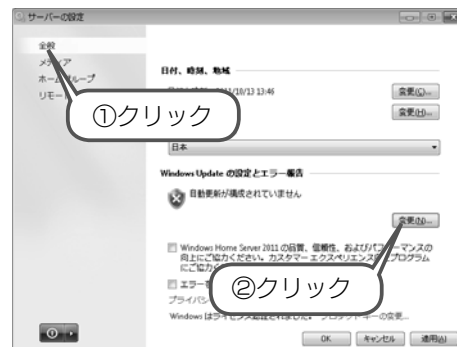
※以下 URL より Windows Update 情報を参照できます。

<http://www.iodata.jp/support/product/hdl-zwh/update.htm>

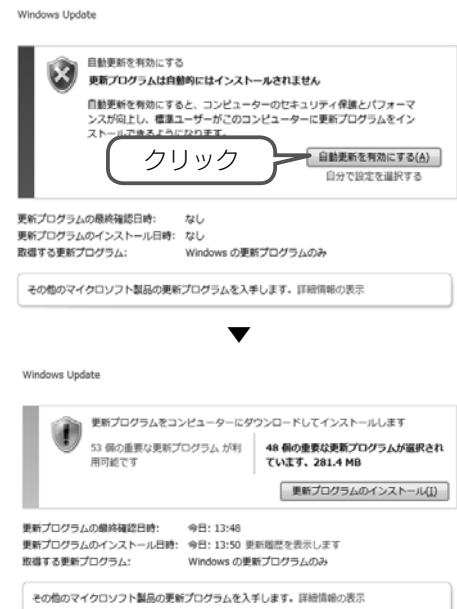
**1** ダッシュボードの [サーバーの設定] をクリックします。



**2** [全般] をクリックし、Windows Update の設定とエラー報告の [変更] ボタンをクリックします。



**3** [自動更新を有効にする] ボタンをクリックします。



あとは画面の指示にしたがってください。

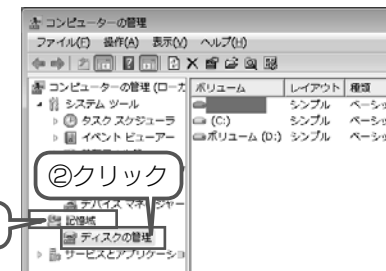
# ボリュームのフォーマット

## ご注意

●フォーマットを実行すると、ハードディスク内のデータはすべて消去されます。フォーマットする前に必ずバックアップをおとりください。

**1** 本製品にリモートデスクトップ接続し、[スタート]→[管理ツール]→[コンピューターの管理]をクリックします。  
(【リモートデスクトップで接続する】(27 ページ) 参照)

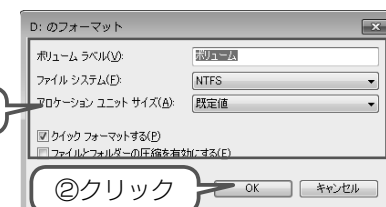
**2** [記憶域] をクリックし、[ディスクの管理] をクリックします。



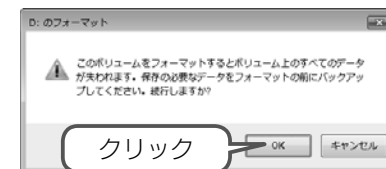
**3** [ボリューム (D:)] を右クリックし、[フォーマット] を選択します。



**4** 必要に応じて設定し、[OK] ボタンをクリックします。



**5** [OK] をクリックします。  
フォーマットを開始します。



以上でフォーマットは完了です。

# IP アドレス設定

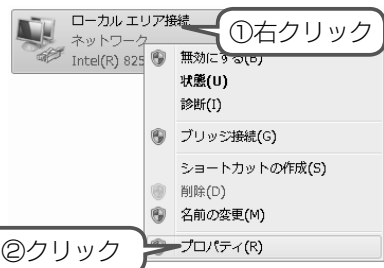
**1** 本製品にリモートデスクトップ接続し、[スタート]→[コントロールパネル]をクリックし、[ネットワークとインターネット]を開きます。  
 (【リモートデスクトップで接続する】(27 ページ) 参照)

**2** [ネットワークと共有センター]をクリックします。

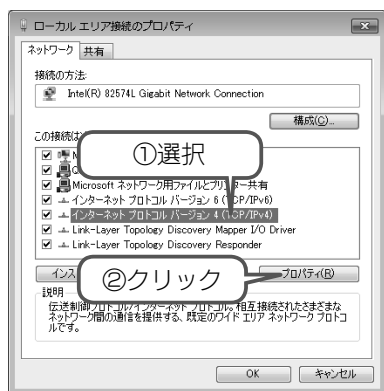
**3** [アダプターの設定の変更]をクリックします。



**4** 設定する LAN アダプターを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。



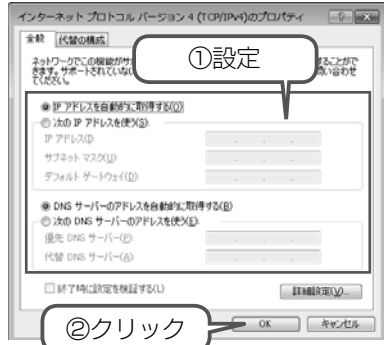
**5** [インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)] を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。



**6** 本製品を接続するネットワーク環境に適した IP アドレスを設定し、[OK] ボタンをクリックします。  
 以上で IP アドレスの設定は完了です。

**参考 IP アドレスを忘れた場合**

- 設定した IP アドレスを忘れたり、ネットワークアダプターを無効にしてシャットダウンしてしまった場合は、以下の方法でリセットしてください。
  - ・本製品が起動している状態で本体裏面のリセットボタンを 5 秒以上長押しします。
    - 手を離すと“ピッ”と音が鳴ります。
 これで本製品の IP アドレス、DNS 設定は初期化されますので、再設定してください。



# パスワード変更

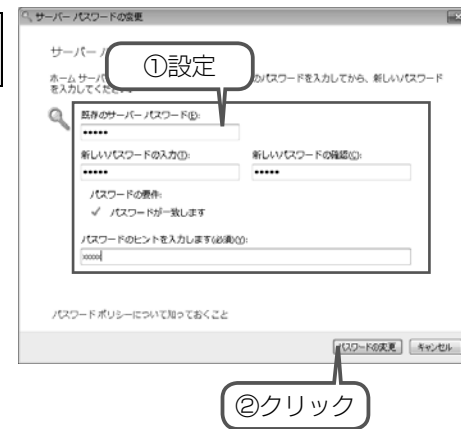
管理者は、コネクタやリモートデスクトップへのアクセス時や、すべての共有（全員共有、ユーザー共有）にアクセスする権限を持っています。

※すべての共有にアクセスできるのは、Windows パソコンからのみです。他人にパスワードが漏れないようしっかり管理し、定期的にパスワードを変更することをおすすめします。

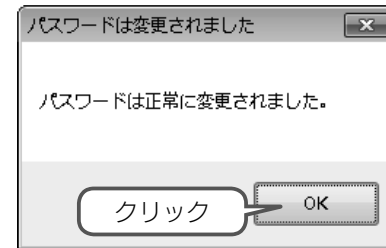
**1** ダッシュボードの[コンピューターとバックアップ]をクリックし、右のタスク内の[サーバーパスワードの変更]をクリックします。



**2** 設定をし、[パスワードの変更]ボタンをクリックします。



**3** [OK] ボタンをクリックします。




これで設定は完了です。

# メール設定

本製品の温度異常を検出した際に、メールで通知するようにします。


1 ダッシュボードの [ZWH Manager] をクリックし、[メール設定] を選択します。



①クリック

②クリック

2 [メール設定] で [有効] にチェックをつけます。各項目を必要に応じて入力/選択し、[設定] ボタンをクリックします。  
※設定項目については、【ZWH Manager】(53 ページ) をご覧ください。



①チェック

②設定

③クリック

以上でメール設定は完了です。

# Func ボタン設定

本製品前面の Func ボタンを長押しすると、ここで設定した動作を実行させることができます。

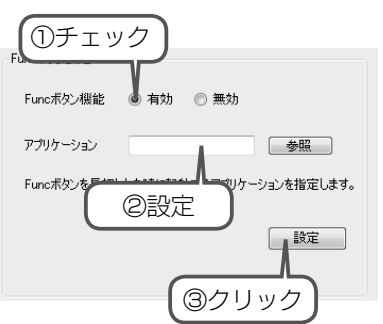
1 ダッシュボードの [ZWH Manager] をクリックし、[Func ボタン設定] を選択します。



①クリック

②クリック

2 [Func ボタン設定] で [有効] にチェックをつけ、関連付けるアプリケーションのパスを入力し、[設定] ボタンをクリックします。  
Func. ボタンに登録できるアプリケーションは、バッチファイルなどコマンドラインで操作できるもののみとなります。



①チェック

②設定

③クリック

以上で Func ボタンの設定は完了です。

# サーバーバックアップ設定

## ご注意

- Windows Server バックアップでは、2TB 以上のデータをバックアップすることはできません。
- また、ボリューム容量が 2TB を超える場合、ボリューム全体ではなくバックアップ対象のフォルダーを個別に指定する必要があります。
- 保存されているデータ容量が多い環境では、市販のバックアップソフトまたは VVAULT のライブ・バックアップ機能のご利用をおすすめします。VVAULT については、【VVAULT】(55 ページ) をご覧ください。
- 動作確認済バックアップソフトについては、弊社ホームページ (<http://www.iodata.jp>) をご覧ください。

本製品のすべてのボリュームをバックアップすることができます。ただし、あらかじめバックアップ専用のハードディスクを用意しておく必要があります。

## 参考

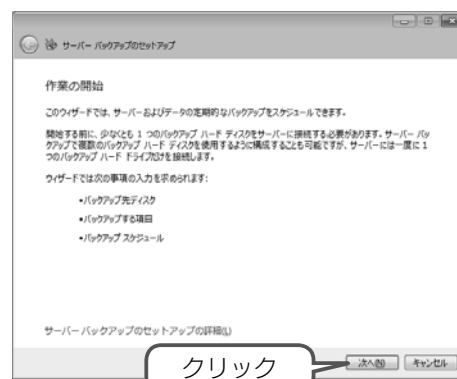
- バックアップ用ディスクは、外付けハードディスクを推奨します。また、複数のドライブを準備すると、バックアップデータをローテーションできます。

## バックアップスケジュールを設定する

1 ダッシュボードの [コンピューターとバックアップ] をクリックし、右のタスク内の [サーバーのバックアップのセットアップ] をクリックします。



2 [次へ] ボタンをクリックします。



3 バックアップ先のディスクを選択し、[次へ] ボタンをクリックします。  
※ディスク番号の確認方法  
本製品にリモートデスクトップ接続し、[スタート] → [管理ツール] → [コンピュータの管理] → [記憶域] → [ディスクの管理]にてディスク番号を確認してください。

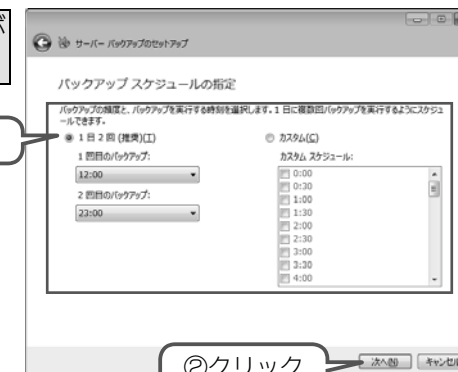
## ご注意

- 選択したバックアップ先のディスクはフォーマットされます。設定の前に必ずバックアップをおとりください。

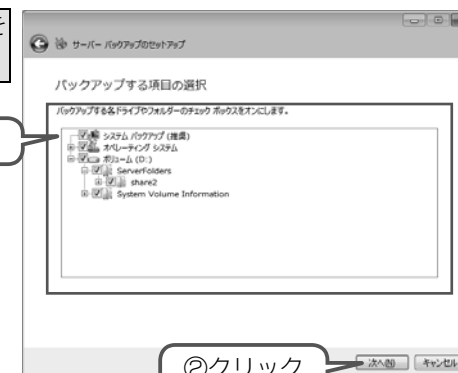
4 バックアップ先のディスクのラベルを入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



5 バックアップスケジュールを設定し、[次へ] ボタンをクリックします。



6 バックアップするドライブまたはフォルダーをチェックし、[次へ] ボタンをクリックします。



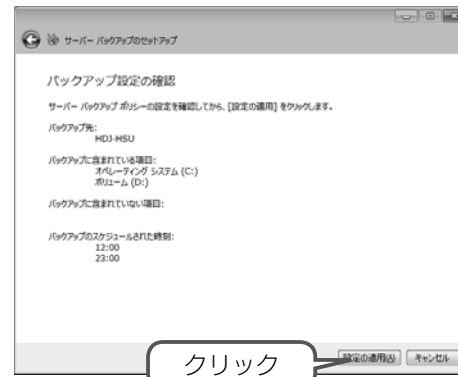
はじめに

初期設定

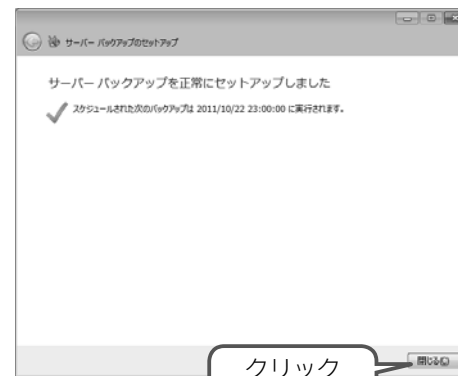
詳細設定

資料

7 [設定の適用] ボタンをクリックします。



8 [閉じる] ボタンをクリックします。



これでバックアップスケジュールが設定されました。

### 参考 バックアップの確認方法

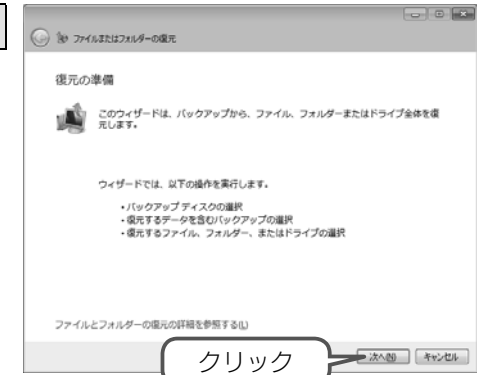
●バックアップの状況は、ダッシュボードの [コンピュータとバックアップ] で確認できます。

## 回復する

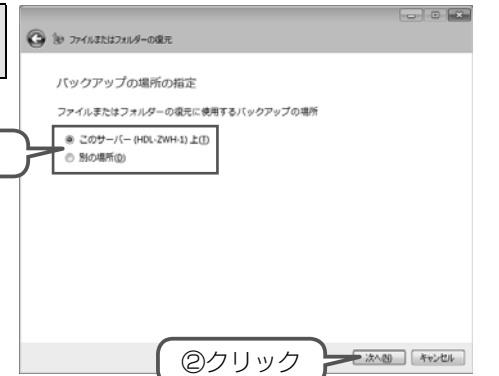
バックアップデータから、任意のドライブ、フォルダー、ファイルを回復できます。

1 ダッシュボードの [コンピュータとバックアップ] をクリックし、右のタスク内の [サーバーのファイルまたはフォルダーの復元] をクリックします。

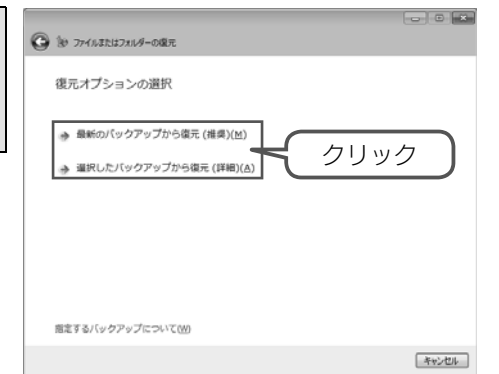
2 [次へ] ボタンをクリックします。



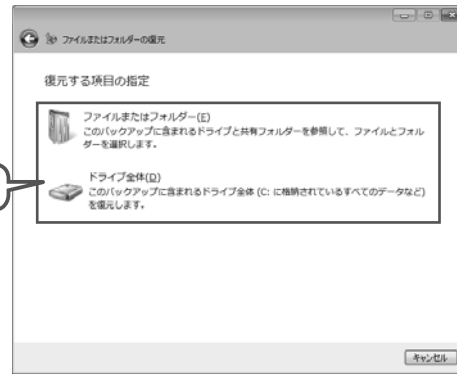
3 復元に使用するバックアップの場所を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



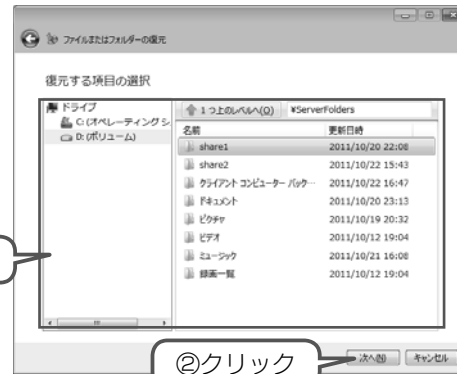
4 [最新のバックアップから復元] または [選択したバックアップから復元] をクリックします。  
※例では [最新のバックアップから復元] をクリックします。



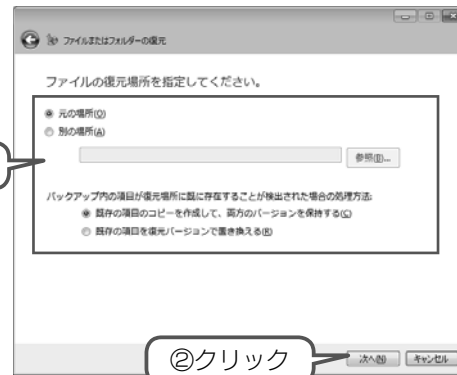
**5** [ファイルまたはフォルダー] または [ドライブ全体] をクリックします。  
※例では [ファイルまたはフォルダー] をクリックします。



**6** 回復するファイルまたはフォルダーを選択し、[次へ] ボタンをクリックします。  
[Ctrl] キーを押しながら、クリックすると、複数のファイルまたはフォルダーを選択することができます。



**7** ファイルを回復する場所と同じ名前のファイルがある場合の処置 (コピーまたは置き換え) を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



**8** [今すぐ復元] ボタンをクリックします。  
→復元を開始します。  
「項目は正常に復元されました」と表示されたら、[閉じる] ボタンをクリックします。



これで回復は完了です。  
46

## アクセス許可

共有フォルダーにアクセス許可を割り当てると、ユーザーのアクセスを制限することができます。

**1** ダッシュボードの [サーバーフォルダーとハードドライブ] をクリックします。



**2** アクセス許可設定をする共有フォルダーを選択し、[フォルダーのプロパティを表示] をクリックします。



**3** ① [共有] タブをクリックします。  
②ユーザーごとにアクセスレベルを設定します。  
③ [OK] ボタンをクリックします。



以上でアクセス許可の設定は完了です。



## カートリッジの増設方法

本製品オプションハードディスク (HDLZ-OP シリーズ) をご購入いただくと、簡単に容量を増設することができます。

### ご注意

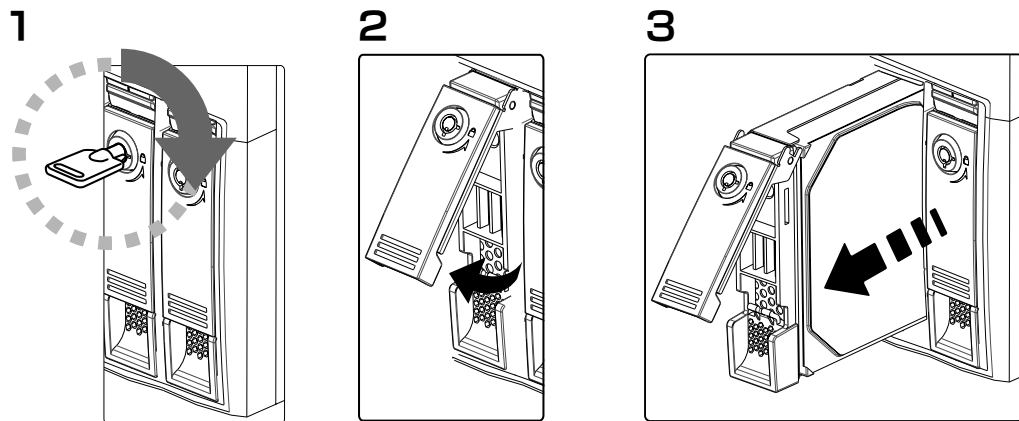
- カートリッジを増設する際は、必ず本製品の電源を切った状態で行ってください。  
【電源を切る場合】(28 ページ) をご覧ください。

### [ステップ 1] 空カートリッジを取り外す

**1** 図 1 のように、空のカートリッジ (HDD1) の添付のロックキーを [ カートリッジ固定ロック ] に合わせ縦向きに挿し、時計回りにまわして、[ UNLOCK ] にします。(ロックキーは、縦向きになります。)

**2** 着脱レバーを上にあげます。

**3** カートリッジを手前に引いて、取り出します。

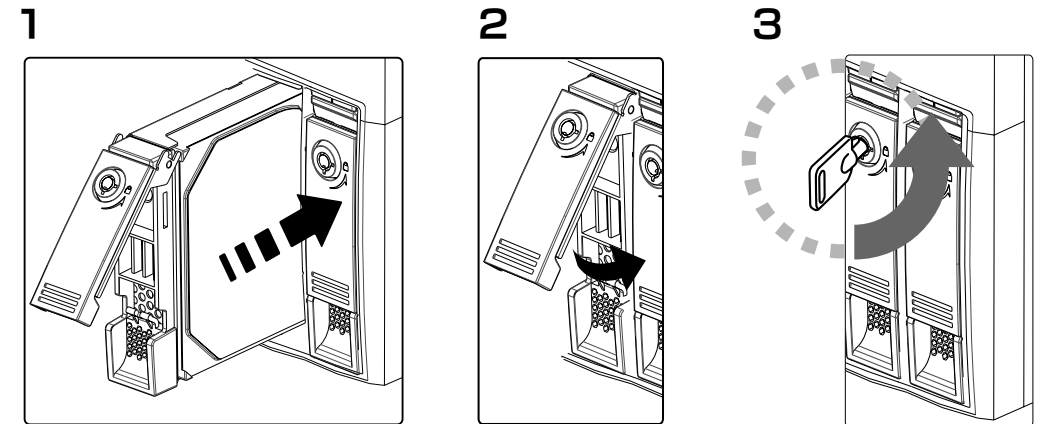


### [ステップ 2] カートリッジを取り付ける

**1** 本製品の電源が切れていることを確認し、カートリッジをスロットの奥まで挿入します。

**2** 着脱レバーを " カチッ " と音がなるまで下におろし、本製品に取り付けます。

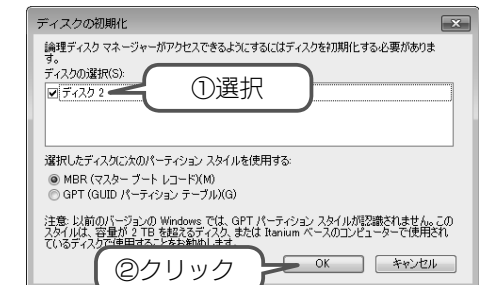
**3** 図 1 のように、添付のロックキーを [ カートリッジ固定ロック ] に合わせ縦向きに挿し、反時計回りにまわして、[ LOCK ] にします。(ロックキーは、横向きになります。)



### [ステップ 3] 増設カートリッジをフォーマットする

**1** 本製品にリモートデスクトップ接続し、[ スタート ] → [ 管理ツール ] → [ サーバーマネージャ ] をクリックします。  
【リモートデスクトップで接続する】(27 ページ) 参照

**2** 増設カートリッジのディスク、パーティションを選択し、「OK」ボタンをクリックします。



**3** 増設カートリッジの欄を右クリックし、「新しいシンプルボリューム」をクリックし、フォーマットします。



あとは画面の指示にしたがってください。

## ハードディスクが故障した場合

- 1 故障したカートリッジを取り外します。  
【[ステップ1] 空カートリッジを取り外す】(48 ページ) 参照
- 2 新しいカートリッジを取り付けます。  
【[ステップ2] カートリッジを取り付ける】(48 ページ) 参照
- 3 ●システムハードディスクを交換した場合  
システムをリカバリーします。  
(【出荷時状態に戻す】(51 ページ) 参照)  
  
●増設ハードディスクを交換した場合  
増設したハードディスクをフォーマットします。  
【[ステップ3] 増設カートリッジをフォーマットする】(49 ページ) 参照

これで作業は完了です。

## 出荷時状態に戻す

### ご注意

- システムリカバリーをおこなうと、本製品のシステムドライブ (C:) を完全に出荷時の状態に戻します。保存されていたデータや、設定情報はすべて失われますので、必要なデータや設定情報は必ずバックアップをおこなってからシステムリカバリーすることをおすすめします。
- C:\WINDOWS フォルダが存在しない場合は、すべてのドライブを消去した後にリカバリーが実行されますので必ず D ドライブのバックアップをとってからリカバリーしてください。

### ご注意

- リカバリーの際は、LAN ケーブルをネットワークに接続し、ドライブは内蔵ハードディスク 1 台と USB 接続の外付け DVD ドライブのみが接続された状態にしてください。この状態でないと、自動的に電源 OFF 状態になりリカバリーできません。  
上記以外の内蔵の増設用ハードディスクや eSATA 機器、USB 機器は取り外してください。

### ステップ 1 準備する

- 1 次の機材をご用意ください。
  - ・USB 接続の DVD ドライブ (2 層式 DVD が読み込める DVD ドライブ)
  - ・本製品添付のサポートソフト DVD
- 2 本製品の電源が OFF になっていることを確認します。
- 3 本製品の USB ポートに、DVD ドライブを接続します。
- 4 LAN ケーブルを使用して、本製品の LAN ポートと、インターネット接続できるルーターまたはハブを接続します。

### ステップ 2 出荷時状態に戻す

- 1 DVD ドライブにサポートソフト DVD を挿入します。
- 2 先の細いピンなどで本体背面の Reset スイッチを押し続けながら、本製品の電源を入れます。7 秒ほど経ったら Reset スイッチから手を離します。
- 3 自動的にリカバリー処理を開始します。  
リカバリー処理には約 40 ~ 50 分程度要します。  
リカバリー処理が完了すると『ピピピッ、ピピピッ…』とブザーが鳴りますので本体前面の Func ボタンを押してブザー音を止めます。

これで出荷時設定に戻りました。

再度、初期設定を行ってください。

※コネクタがすでにインストール済みの場合は、いったんアンインストールしてから初期設定を行ってください。

## 出荷時設定

コンピューター名	HDL-ZWH
ワークグループ名	WORKGROUP (変更不可)
IP アドレス	自動取得
DNS サーバーアドレス	自動取得

## ランプの状態

カテゴリ	STATUS	HDD	ブザー	動作内容	対処
通常稼働時	緑点灯	緑点灯	なし	通常稼働中	-
エラー	緑点灯	認識した HDD のみ 緑点灯	ビッ、 ビッ、 ビッ、...	起動 HDD がいない時	起動 HDD が接続されていません。HDD が正常に接続されていることを確認してください。
	赤点灯	緑点灯	なし	温度異常の時	設置環境を確認し、FAN からの排熱が逃げ易い環境であることを確認してください。温度異常を検知したら自動的に電源が切れますので、再起動後に再び同じ現象が起きたら FAN が正常に稼働していることを確認してください。
リカバリー	緑点減	緑点減または緑点灯	なし	USB 接続の外付け DVD ドライブからリカバリ DVD を起動時 (再起動するまで状態を維持します。)	-
	緑点灯	緑点灯	ピピピッ、 ピピピッ、 ピピピッ、 ピピピッ、 ...	リカバリーが完了しユーザーが初回セットアップできる準備が整った時	Func ボタンを押してブザー音を止め、パソコンの Web ブラウザーから以下にアクセスしセットアップを開始します。 <a href="http://hdl-zwh/connect">http://hdl-zwh/connect</a> (詳細は、【出荷時状態に戻す】(51 ページ) 参照)

## ログ、メール一覧

ログ・メール内容	メールタイトル	概要	対処
本体内部の温度が仕様範囲を超えたため本体をシャットダウンしました。	温度異常	システム温度が仕様範囲を超えた。	設置環境を確認し、FAN からの排熱が逃げ易い環境であることを確認してください。温度異常を検知したら自動的に電源が切れますので、再起動後に再び同じ現象が起きたら FAN が正常に稼働していることを確認してください。
Func ボタンが押され登録されているコマンド xxx が実行されました。(x x は登録したコマンド)	(メールなし)	Func. ボタンが有効で、Func. ボタンが押された。	Func ボタン機能が有効の場合は、Func. ボタンを 3 秒以上押しと登録したコマンドが実行されますので、登録されたコマンドが実行されたことを確認してください。

## ZWH Manager

ZWH Manager は本製品の温度管理など、その他設定を行う管理ソフトです。

ZWH Manager は本製品の起動と同時に自動的に起動します。ダッシュボード上に表示されます。

### ZWH Manager メイン画面の表示方法

- 1 ダッシュボードを開き、[ZWH Manager] をクリックします。  
→ ZWH Manager のメイン画面が表示されます。画面左側が項目、右側が詳細情報ビューとなります。

▼メイン画面 … 各種バージョンを表示します。



ZWH Manager バージョン	ZWH Manager のバージョンを表示します。
ZWH UI Manager バージョン	ZWH UI Manager のバージョンを表示します。
BIOS バージョン	製品の BIOS バージョンを表示します。

### ZWH Manager 画面一覧

▼本体 FAN と温度 … FAN の回転数と本体温度を表示します。



FAN 回転数	現在の FAN の回転数を表示します。
本体温度	現在の本体の温度を表示します。

▼メール設定 … メール送信設定を表示します。



メール機能	メール機能の有効 / 無効を設定します。
SMTP サーバー	SMTP サーバーを入力します。
SMTP サーバー ポート番号	SMTP サーバーポート番号を入力します。
メール差出人アドレス	差出人として表示するメールアドレスを入力します。
認証方式	認証方式を選択します。
認証 POP サー バー名	選択した [ 認証方式 ] に応じた認証 POP サーバー名を入力します。
ユーザー名	選択した [ 認証方式 ] に応じたユーザー 名を入力します。
パスワード	選択した [ 認証方式 ] に応じたパスワー ドを入力します。
メール送信先アド レス	送信先のメールアドレスを入力します。
エンコード	エンコード方式を [ISO-2022-JP] か [UTF-8] から選択します。

▼ Func ボタン設定 … Func. ボタンの設定を表示します。



Func ボタン機 能	Func ボタン機能の有効 / 無効を 設定します。
アプリケーション	Func. ボタンを押すことにより、 起動するアプリケーションを設定 します。

# VVAULT

VVAULT は、本製品にあらかじめインストールされているストレージの仮想化を手軽に実現するソフトウェアです。

Windows OS 上にマウント可能なすべてのストレージを一つに統合して大容量の仮想ストレージを構築することができます。また、ライブ・バックアップ、ライブ・リカバリ機能を設定することにより、冗長性の高いストレージを構築できます。

詳しい使用方法については、電子マニュアルをご覧ください。

●電子マニュアルの利用方法

サポート DVD 内「マニュアル」フォルダーをご確認ください。

※あらかじめ Adobe Reader をインストールする必要があります。Adobe 社よりダウンロードしてください。(http://get.adobe.com/jp/reader/)

## 仮想ドライブを作成する

1 ダッシュボードの [VVAULT] をクリックします。



2 ログイン画面が表示された場合、以下を入力し、[ログイン] ボタンをクリックします。  
アカウント名 : Administrator  
パスワード : 本製品に設定されたパスワード



3 [メニュー] → [ストレージ追加] をクリックします。  
→ [ストレージ追加] 画面が表示されます。



**4** ストレージ追加の設定をして、[決定] ボタンをクリックします。

種類	追加するドライブをどのティアに割り当てるかを指定します。
ストレージ名	任意のわかりやすい名前を付けます。
管理対象パス	実際のドライブやフォルダーを指定します。画面例では、Dドライブ全体を指定しています。 NASを仮想ドライブに追加する場合は、NASのパスを指定します。 例えば、HDL-ZWHという-host名のNASにある、diskという共有フォルダーを追加する場合は、「¥¥HDL-ZWH¥disk」と入力します。
コメント	必要に応じて入力します。
ネットワークストレージへの接続	アクセス先の共有フォルダーにユーザー認証が必要な場合は、[ユーザー名とパスワードを使用する]にチェックし、[ユーザー名]と[パスワード]を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザー名 IPアドレスまたはホスト名¥ユーザー名</li> <li>パスワード ユーザーパスワード</li> </ul>



**参考 「ティア」とは？**

● VVAULT ではストレージに「ティア」という優先順位を設定できます。  
ティアには 4 段階あり、ストレージの速度に応じて『最速』、『高速』、『中速』、『低速』が選択できます。  
VVAULT は書き込み要求があった時に『最速』に優先的に書き込みます。また、ティアリング機能によって、良く使うファイルは『最速』ドライブに、あまり使わないファイルは速度の遅いドライブに自動的に再配置し、効率よいストレージ利用ができるようになります。  
内蔵ドライブや eSATA 接続ハードディスクは最速、USB ストレージは高速～中速、NAS は低速に設定すると良いでしょう。

**5** 選択したティアにハードディスクが追加されたことを確認します。



これで仮想ドライブが作成されました。次ページへお進みください。

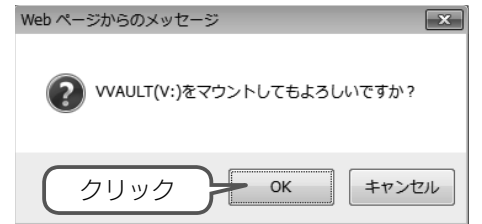
**仮想ドライブをマウントする**

はじめてハードディスクを追加した場合は、この仮想ドライブが使えるように [マウント] を行います。マウントすることにより、仮想ドライブがドライブ V として利用できるようになります。

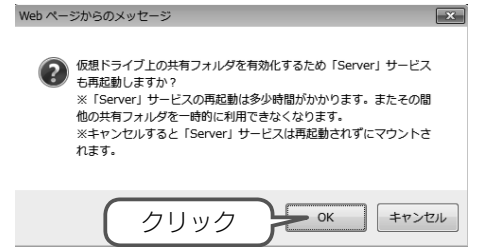
**1** [メニュー] → [仮想ドライブをマウント] をクリックします。



**2** [OK] ボタンをクリックします。



**3** 共有サービスが停止しますので、誰も本製品にアクセスしていないことを確認してから、[OK] ボタンをクリックします。



**ご注意**  
● 本製品上のファイルを編集しているときに [OK] ボタンをクリックすると、編集中のファイルが失われる場合があります。

**4** マウントが完了すると、アンマウントの警告メッセージと、仮想ドライブ V に表示されていた停止マークが消えます。

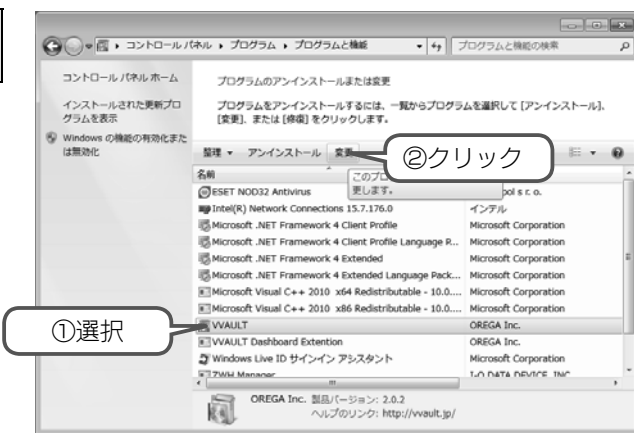
これで仮想ドライブ V が利用できます。  
仮想ドライブ V 上に共有フォルダーを作成すると、仮想ストレージ環境をユーザーが利用できます。共有フォルダーの作成手順は【共有フォルダーを作成する】(22 ページ) をご覧ください。  
なお、サーバーフォルダーのうち、クライアントバックアップ用のフォルダーは仮想ストレージ上に配置できません。

## ライブバックアップの設定をする

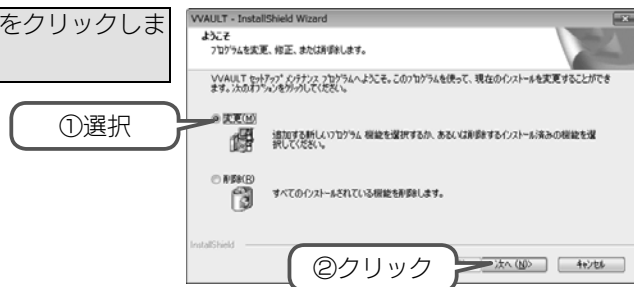
ライブバックアップ機能とは、仮想ドライブを監視し、変更データを自動的にバックアップドライブへ複製する機能です。最新状態のバックアップを意識することなく取ることができます。あらかじめバックアップ用のハードディスクを接続し、どのドライブが割り当てられているか確認しておきます。以下の例では増設したハードディスクにドライブEが割り当てられており、このドライブEをバックアップドライブとして利用する設定方法について説明しています。

**1** 本製品へリモートデスクトップ接続し、[スタート]→[コントロールパネル]→[プログラムのアンインストール]をクリックします。  
 (【リモートデスクトップで接続する】(27 ページ) 参照)

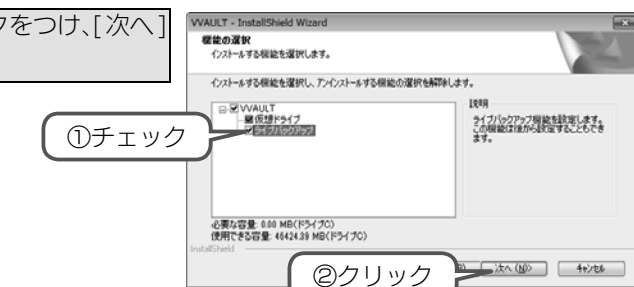
**2** [VVAULT] を選択し、[変更] をクリックします。



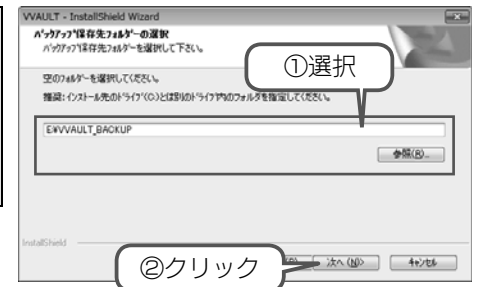
**3** [変更] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



**4** [ライブバックアップ] にチェックをつけ、[次へ] ボタンをクリックします。



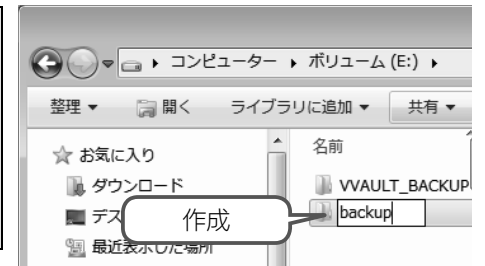
**5** バックアップ保存先フォルダーを選択し、[次へ] ボタンをクリックします。  
 必ず増設したハードディスクにバックアップ保存先フォルダーが設定されるようにします。  
 →設定を開始します。しばらくお待ちください。



**6** [次へ] ボタンをクリックします。



**7** バックアップフォルダーの準備をします。  
 エクスプローラでバックアップ先フォルダーを開き、バックアップ用のフォルダーを作成します。  
 例では、ドライブEに新しいフォルダー [backup] を作成しています。



**8** リモートデスクトップ接続を終了します。

**9** ダッシュボードの [VVAULT] をクリックします。



**10** ログイン画面が表示された場合、以下を入力し、[ログイン] ボタンをクリックします。  
 アカウント名：Administrator  
 パスワード：本製品に設定されたパスワード



はじめに

初期設定

詳細設定

資料

**11** [メニュー]→[バックアップストレージ追加]を選択し、ドライブ情報を入力します。



②クリック

**12** バックアップストレージ追加の設定をして、[決定]ボタンをクリックします。



②クリック

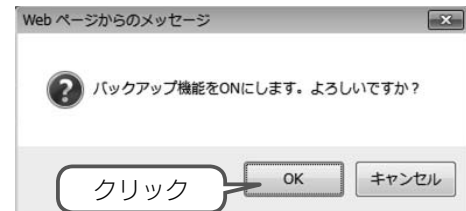
種類	追加するドライブをどのティアに割り当てるかを指定します。
ストレージ名	任意のわかりやすい名前を付けます。
管理対象パス	手順7で作成したバックアップフォルダを指定します。
コメント	必要に応じて入力します。

**13** バックアップドライブを選択し、[バックアップ ON] ボタンをクリックします。



①選択

**14** [OK] ボタンをクリックします。



クリック

バックアップが開始されると、「バックアップ実行中・・・〇〇件」と表示されます。ここで表示される件数はバックアップがまだ行われていないファイル数です。件数が0のときはすべてのファイルがバックアップされていることを示します。

# ESET NOD32 アンチウイルス 90 日体験版

ESET NOD32 アンチウイルスは、本製品にあらかじめインストールされている、万全なウイルス対策と軽快な動作を兼ね備えた、アンチウイルスソフトです。サーバーに保存されるファイルをウイルスの脅威から守ります。

※ 90 日体験版となっております。

※ ESET NOD32 アンチウイルスのマニュアルは、以下フォルダー内に収録しています。

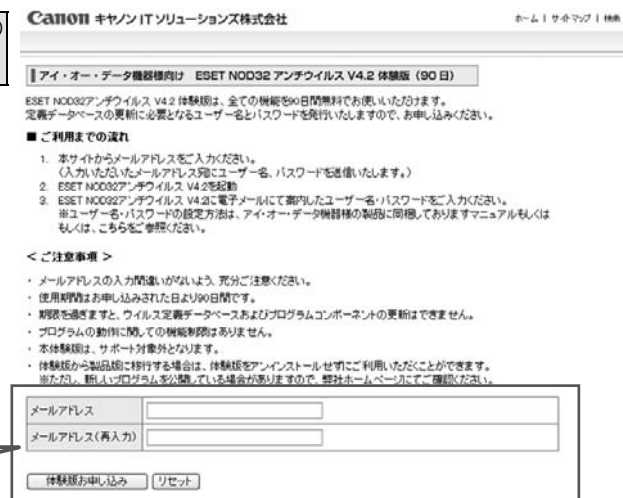
収録フォルダー：C:\Program Files (x86)\ESET\EAVINST\doc

- ・スタートアップガイド .pdf
- ・設定ガイド .pdf

## 体験版を登録する

**1** Web ブラウザーから、以下の URL にアクセスします。  
[http://canon-its.jp/eset/trial/index\\_id.html](http://canon-its.jp/eset/trial/index_id.html)

**2** 右のような画面が表示されますので、メールアドレスを登録します。



**3** 登録したメールアドレスにメールが届きますので、ユーザー名やパスワードなどを確認します。

■ お客様のユーザー名/パスワードは以下の通りです。

ユーザー名 : EAV-\*\*\*\*\*  
パスワード : \*\*\*\*\*  
有効期限 : 2012/xx/xx

**4** 本製品にリモートデスクトップ接続をします。  
【リモートデスクトップで接続する】(27 ページ) 参照

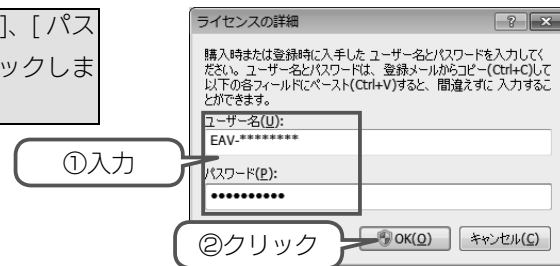
5 順に、タスクトレイ（画面右下）の[△アイコン]→[ESET NOD32 アンチウイルスアイコン]をクリックし、表示されたメニューから[ウィンドウを開く]をクリックします。



6 [設定]→[ユーザー名とパスワードを入力]をクリックします。



7 メールに記載されている[ユーザー名]、[パスワード]を入力し、[OK] ボタンをクリックします。



8 [アップデート]をクリックし、[ウイルス定義データベースをアップデートする]をクリックします。  
→データベースの更新処理がはじまります。  
しばらくお待ちください。



これで、ESET NOD32 アンチウイルスの機能が 90 日間ご利用いただけます。  
画面を閉じて、リモートデスクトップ接続を終了してください。  
使用方法については、[ヘルプとサポート] をクリックし、ヘルプを参照してください。



# ActiveImage Protector

ActiveImage Protector は、パソコンを起動したまま、OS やアプリケーションを含めたボリューム全体をディスクイメージでバックアップするソフトウェアです。

詳しい操作方法、設定方法については、ActiveImage Protector の取扱説明書・ヘルプをご覧ください。

※ ActiveImage Protector の取扱説明書は、「ActiveImage Protector Desktop Edition」CD-ROM 内の「DOC」フォルダー内の以下のファイルです。

- ・ご利用ガイド ActiveImageProtector.pdf
- ・クイックスタートガイド AIP30\_QSG.PDF

●対応 OS

- Windows® 7 (x86/x64)
- Windows Vista® (x86/x64)
- Windows® XP
- Windows® 2000 Professional (Windows 2000 SP4 用の更新プログラム ロールアップ 1 必須)

## ActiveImage Protector Desktop インストールに関するお問い合わせ先

株式会社ネットジャパン

電話番号: 03-5256-0860

email: Active-Support@netjapan.co.jp

サポートサービス受付時間: 09:30 ~ 12:00 および 13:00 ~ 17:00

(土・日・祝日およびネットジャパン休業日を除く)

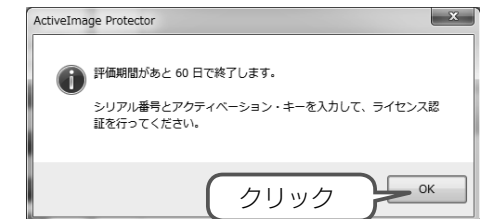
※インストール以外のお問合せについては、別途ネットジャパン社よりサポートサービスをご購入いただく必要があります。

ActiveImage Protector をインストールした直後は、60 日間限定の評価版として起動します。

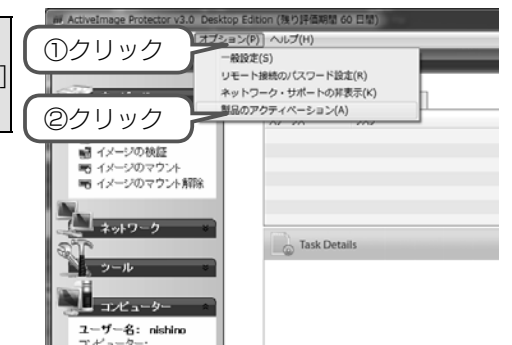
以下の手順をおこなうと、製品版として 60 日を超えてご利用いただくことができます。

※ 評価版も 60 日以内であれば製品版と同等の機能がご利用いただけます。

1 初回起動時に右の画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。



2 ActiveImage Protector のメニューから [オプション]→[製品のアクティベーション] をクリックします。

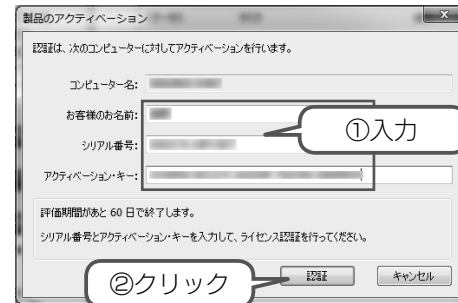




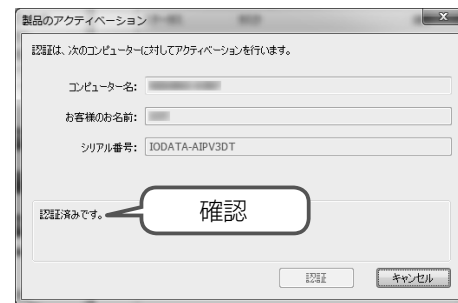
**3** 次の内容を入力し、[認証] ボタンをクリックします。「認証に成功しました」と表示されたら完了です。

※認証に失敗したときはシリアル番号とアクティベーションキーを確認してください。小文字で入力している場合は大文字で入力します。

- ・ お客様の名前
- ・ シリアル番号
- ・ アクティベーションキー



**4** 再度[オプション]→[製品のアクティベーション]を選択して、「認証済みです」と表示されていたら、アクティベーションは完了です。



## 仕様

製品型番	HDL-Z2WH2T/1D	
内蔵 HDD	容量	2.0TB
LAN	転送規格	IEEE 802.3ab, IEEE802.3u, IEEE802.3 (1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T)
	最大転送速度	1000/100/10Mbps
	コネクタ	RJ-45 × 2
	アクセス方法	CSMA/CD
	MDI/MDI-X	自動切換
	適合ケーブル	UTP カテゴリ 5e 以上、100m 以下
eSATA ホスト	転送規格	SATA I / SATA II (NCQ 対応)
	最大転送速度	3.0Gbps
USB ホスト	コネクタ	eSATA コネクタ × 2
	転送規格	USB 2.0(1.1 含む)
	最大転送速度	480Mbps
電源仕様	コネクタ	USB A コネクタ × 5
	定格電圧	DC 12V
動作環境	消費電力(電流)	5A
	使用温湿度	0 ~ 40°C 20 ~ 80% (結露なきこと)
物理仕様	外形寸法	約 102(H)×216(W)×150(H)mm (突起部除く)
	質量(本体のみ)	約 3.0kg

はじめに

初期設定

詳細設定

資料

# アフターサービス

※ご提供いただいた個人情報は、製品のお問合せなどアフターサービス及び顧客満足度向上のアンケート以外の目的には利用いたしません。また、これらの利用目的の達成に必要な範囲内で業務を委託する場合を除き、お客様の同意なく第三者へ提供、または第三者と共同して利用いたしません。

## お問い合わせについて

必ず以下の内容をご確認ください



弊社サポートページの Q&A を参照  
→ <http://www.iodata.jp/support/>



最新のドライバソフト等をダウンロード  
→ <http://www.iodata.jp/lib/>



それでも解決できない場合は、サポートセンターへ

電話：050-3116-3025

※受付時間 9:00~17:00 月~金曜日(祝祭日をのぞく)

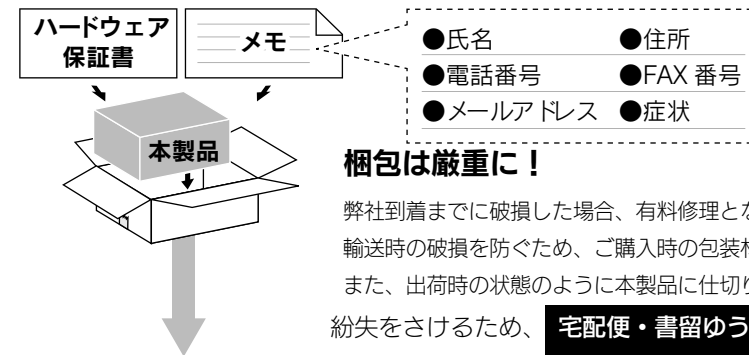
FAX：076-260-3360

インターネット：<http://www.iodata.jp/support/>

<ご用意いただく情報> 製品名 / パソコンの型番 / OS

## 修理について

修理をご依頼される場合は、以下の要領でお送りください。



〒920-8513

石川県金沢市桜田町 2 丁目 84 番地

株式会社 アイ・オー・データ機器 修理センター 宛

- 送料は、発送時はおお客様ご負担、返送時は弊社負担とさせていただきます。
- 有料修理となった場合は先に見積をご案内いたします。(見積無料) 金額のご了承をいただいております。
- 内部データは厳密な検査のため、消去されます。何卒、ご了承ください。バックアップ可能な場合は、お送りいただく前にバックアップをおこなってください。弊社修理センターではデータの修復はおこなっておりません。
- お客様が貼られたシール等は、修理時に失われる場合があります。
- 保証内容については、保証規定に記載されています。
- 修理をお送りになる前に製品名とシリアル番号 (S/N) を控えておいてください。

修理について詳しくは… <http://www.iodata.jp/support/after/>

マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項
MICROSOFT WINDOWS HOME SERVER 2011

本マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項（以下「本ライセンス条項」といいます）は、お客様と以下の当事者との契約を構成します。

- ソフトウェア（以下「本ソフトウェア」といいます）をサーバーと共に頒布するサーバー製造業者（以下「製造業者」といいます）、または本ソフトウェアをサーバーと共に頒布するソフトウェア インストール業者（以下「インストール業者」といいます）
- 以下のライセンス条項をお読みください。本ライセンス条項は、上記のソフトウェアおよびソフトウェアが記録されたメディア（以下総称して「本ソフトウェア」といいます）に適用されます。本ソフトウェアに印刷されたライセンス 条項が付属している場合は、印刷されたライセンス条項が、画面に表示される条項より優先されます。また、本ライセンス条項は本ソフトウェアに関連する下記マイクロソフト製品にも適用されるものとします。
- 更新プログラム
- 追加ソフトウェア
- インターネットベースのサービス
- サポート サービス

なお、これらの製品に別途ライセンス条項が付属している場合には、当該ライセンス条項が適用されるものとします。お客様が更新プログラムまたは追加ソフトウェアをマイクロソフトから直接入手された場合は、製造業者またはインストール業者ではなく、マイクロソフトが当該更新プログラムまたは追加ソフトウェアのライセンスを付与します。

本ソフトウェアを使用することにより、お客様は本ライセンス条項に同意されたものとします。本ライセンス条項に同意されない場合、本ソフトウェアを使用することはできません。この場合、製造業者またはインストール業者に問い合わせ、お支払いいただいた金額の払い戻しに関する方針を確認してください。

以下に説明するように、本ソフトウェアを使用することにより、アクティベーション中、検証中、およびインター ネットベースのサービスにおいて、特定のコンピューター情報が送信されることに、お客様が同意されたものとします。

お客様がこれらのライセンス条項を遵守することを条件として、お客様には、取得する各ソフトウェア ライセンスにつき以下が許諾されます。

- 総則。
  - ソフトウェア。本ソフトウェアは次の製品で構成されます。
    - サーバー ソフトウェア
    - サーバー ソフトウェアによって直接使用されるのみの追加ソフトウェア、または他の追加ソフトウェアを介して間接的に使用される追加ソフトウェア
  - ライセンスの形態。本ソフトウェアのライセンスは以下の形態に基づきます。
    - お客様が実行するサーバー ソフトウェアのインスタンス数
    - サーバー ソフトウェアのインスタンスにアクセスするアカウントの数

- ライセンスに関する用語。
  - インスタンス。お客様は、ソフトウェアのセットアップまたはインストール手順を実行することにより、ソフトウェアの「インスタンス」を作成したものとみなされます。また、既存のインスタンスを複製することによって、ソフトウェアのインスタンスを作成したものとみなされます。本ライセンス条項に含まれる本ソフトウェアに関する記述は、本ソフトウェアの「インスタンス」も含まれます。
  - インスタンスの実行。お客様は、ソフトウェアのインスタンスをメモリに読み込み、その 1 つ以上の命令を実行することにより、「インスタンスを実行」したものとみなされます。実行されると、インスタンスはそれがメモリから削除されるまで実行中であるとみなされます。その指示が引き続き実行されているか否かには左右されません。
  - オペレーティング システム環境。「オペレーティング システム環境」とは次のように定義されます。
  - 別個のコンピューター（プライマリ コンピューター名などの一意の識別子）または別個の管理者権限を識別できる、オペレーティング システム インスタンスの全部または一部、仮想（またはエミュレートされた）オペレーティング システム インスタンスの全部または一部
  - （該当する場合は）上記のオペレーティング システム インスタンスまたはその一部で実行されるように構成されているアプリケーションのインスタンス

オペレーティング システム環境には、物理環境と仮想環境の 2 種類があります。物理的オペレーティング システム環境は、物理的ハードウェア システム上で直接動作するように構成されています。ハードウェア仮想化ソフトウェア (Microsoft Hyper-V Server または同様のテクノロジなど) を実行するため、またはハードウェア仮想化サービス (Microsoft 仮想化テクノロジまたは同様のテクノロジなど) を提供するために使用されるオペレーティング システム インスタンスは、物理的オペレーティング システム環境の一部とみなされます。仮想オペレーティング システム環境は、仮想的（またはエミュレートされた）ハードウェア システム上で動作するように構成されています。物理的ハードウェア システムには、次のいずれかまたは両方が含まれます。

- 1 つの物理的オペレーティング システム環境
- 1 つ以上の仮想オペレーティング システム環境
- サーバー。サーバーとは、サーバー ソフトウェアを実行することのできる物理的ハードウェア システムをいいます。ハードウェア パーティションまたはブレードは、別個の物理的ハードウェア システムとみなされます。
- ライセンスの割り当て。ライセンスを割り当てるとは、1 つのサーバーまたはユーザーに当該ライセンスを指定することを意味します。

2. 使用に関する権利。

- 本サーバーへのライセンスの割り当て。本ソフトウェアのライセンスは、お客様が本ソフトウェアを取得する際に使用したサーバーに永続的に割り当てられます。本ソフトウェアをハードウェア パーティション上で実行する場合は、当該パーティションが、ライセンスを割り当てるサーバーとなります。そのサーバーは、その特定のライセンスに関して「ライセンス取得済みのサーバー」とみなされます。同じサーバーに別のソフトウェア ライセンスを割り当てることができますが、同じライセンスを複数のサーバーに割り当てるとはできません。
- サーバー ソフトウェアのインスタンスの実行。お客様は、ライセンス取得済みサーバー上の物理的、または仮想的な 1 つのオペレーティング システム上で 1 度に 1 つのインスタンスを実行することができます。
- サーバー ソフトウェアの使用。お客様は、最大 10 個のアカウントを使用することができます。各アカウントでは、指定されたユーザーによる当該サーバー上のサーバー ソフトウェアへのアクセスおよびその使用を許可します。
- 追加ソフトウェア。

i. Windows Home Server Connector。お客様は、一度に Windows Home Server Connector ソフトウェアを 10 台を超えないパーソナル コンピューターにインストールして使用できます。このソフトウェアをインストールしたすべてのパーソナル コンピューターは、本サーバー ソフトウェアと同じローカル エリア ネットワークに接続されている必要があります。お客様は、これらのソフトウェアを本サーバー ソフトウェアと共に使用する場合に限り、使用することができます。

ii. Windows Home Server Home Computer Restore。お客様は、Windows Home Server Connector ソフトウェアを既にインストールしている各パーソナル コンピューターに Windows Home Server Home Computer Restore ソフトウェアをインストールして使用できます。お客様は、バックアップを作成した同じパーソナル コンピューターにのみ、そのバックアップ イメージを復元できます。お客様は、これらのソフトウェアを本サーバー ソフトウェアと共に使用する場合に限り、使用することができます。

iii. その他の追加ソフトウェア。お客様は、任意の数のデバイス上で、以下に記載する追加ソフトウェアの任意の数のインスタンスを実行または使用することができます。追加ソフトウェアは、本サーバー ソフトウェアによってのみ直接またはその他の追加ソフトウェアを介して間接的に使用できます。

- Remote Desktop Connection Client
- その他のツールが含まれる場合がありますが、本サーバー ソフトウェアと使用するためにライセンスされるものではありません。
- サーバーまたはストレージ メディア上でのインスタンスの作成と格納。お客様には、取得される各ソフトウェア ライセンス 1 つにつき、以下の追加の権利が許諾されます。
  - お客様は、サーバー ソフトウェアおよび追加ソフトウェアについて、任意の数のインスタンスを作成することができます。
  - お客様は、本サーバー ソフトウェアおよび追加ソフトウェアのインスタンスをお客様の任意のサーバーまたはストレージ メディアに格納することができます。
  - お客様は、上記に従ってお客様のソフトウェア ライセンスに基づいて本サーバー ソフトウェアのインスタンスを実行する権利を行使する目的に限り（たとえば、お客様は第三者にインスタンスを頒布することはできません）、本サーバー ソフトウェアおよび追加のソフトウェアのインスタンスを作成および保存することができます。
  - 含まれるマイクロソフト製プログラム。本ソフトウェアには、他のマイクロソフト製プログラムも含まれています。お客様によるこれらのプログラムの使用には、本ライセンス条項が適用されます。
  - 機能の制限。
    - 特定用途。製造業者またはインストール業者は、本サーバーを特定用途向けに設計しました。お客様は、当該用途に限り本ソフトウェアを使用することになります。お客様は、本サーバー ソフトウェアを基幹業務アプリケーション（タイム マネージメント ソフトウェアなど）、エンド ユー

ザー クライアント アプリケーション (Microsoft Office など) またはこれらの種類のアプリケーションの実行またはサポートするために使用することはできません。

- Active Directory。お客様は、本サーバー ソフトウェアをドメイン コントローラーとして使用したり、または DCPromo.exe を使用したりすることはできません。また、お客様は、本サーバー ソフトウェアを任意の Active Directory ドメインに参加させることもできません。
- サーバーの役割。お客様は、サーバー セットアップ プロセス時に既に有効にされている役割を除き、サーバーの役割を使用できません。
- 追加のライセンス条件および追加の使用権。

- マルチプレキシング（多重化）。次の目的でハードウェアまたはソフトウェアを使用する場合があります。
  - 接続のプール
  - 情報の経路を変更する
  - 本ソフトウェアに直接アクセスまたは使用するデバイスやユーザーの数を削減する
  - 本ソフトウェアにより直接管理されるデバイスまたはユーザーの数を削減する
- このようなハードウェアまたはソフトウェアを使用（「マルチプレキシング」または「プーリング」と呼ばれることがあります）した場合であっても、必要なライセンス（種類を問いません）の数を減じることはできません。
- フォント コンポーネント。本ソフトウェアの実行中、お客様は本ソフトウェアに付属のフォントを使用して コンテンツを表示および印刷することができます。以下の操作のみが許可されます。
  - フォントの埋め込みに関する制限の下で許容される範囲でコンテンツにフォントを埋め込む。
  - コンテンツを印刷するために、フォントをプリンターまたはその他の出力デバイスに一時的にダウンロードする。
- アイコン、画像、および音声。本ソフトウェア作動中、本ソフトウェアのアイコン、イメージ、サウンド、およびメディアを使用することはできますが、これらを共有することはできません。本ソフトウェアと共に提供されるサンプルの画像、音声、およびメディアは、お客様の非商業的な使用のみを目的としています。
- サーバー ソフトウェアの分離の禁止。明示的に許可されている場合を除き、お客様は、1 つのライセンスに基づいて本サーバー ソフトウェアを分離して、複数のオペレーティング システム環境で実行することはできません。この制限は、オペレーティング システム環境が同一の物理的ハードウェア システム上に存在する場合でも適用されます。
- 追加の機能。マイクロソフトは、本ソフトウェアに追加機能を提供する場合があります。その際、別途のライセンス条項および料金が適用されることがあります。

4. アクティベーションの義務。アクティベーションにより、ソフトウェアの使用が特定のデバイスに関連付けられます。アクティベーション中、本ソフトウェアにより本ソフトウェアおよび当該デバイスに関する情報がマイクロソフトに送信されます。この情報には、本ソフトウェアのバージョン、言語、プロダクト キーの他、デバイスのインターネット プロトコル アドレス、およびデバイスのハードウェア構成から派生した情報が含まれます。詳細については、www.microsoft.com/piracy/mpa.aspx をご参照ください。本ソフトウェアを使用することにより、お客様はこうした情報の送信に同意されたものとします。正式にライセンスを取得している場合、お客様は、アクティベーションが認められている期間中は、インストール プロセスにおいてインストールされた本ソフトウェアのバージョンを使用する権利を有します。本ソフトウェアがアクティベーションされていない場合、お客様は、アクティベーションが認められた期間の終了後に本ソフトウェアを使用する権利を有しません。これは、不正使用を防止するための措置です。アクティベーションを無視または回避することは、禁止されています。デバイスがインターネットに接続されている場合、本ソフトウェアはアクティベーションを行うためにマイクロソフトへ自動的に接続されます。本ソフトウェアのアクティベーションは、インターネットまたは電話により、手動で行うこともできます。その場合、インターネットおよび電話の通信料金が発生することがあります。お客様がコンピューターのハードウェア構成を変更した場合や、本ソフトウェアの設定を変更した場合には、本ソフトウェアのアクティベーションを再度行う必要が生じることがあります。本ソフトウェアは、アクティベーションが実行されるまで、アクティベーションが必要なことをお知らせします。

5. 検証。

a. 製造業者またはインストール業者がお客様のために本ソフトウェアのアクティベーションを実行した場合、お客様が本ソフトウェアを初めて使用するとき、アクティベーションを行うかどうかを確認するメッセージは表示されません。本ソフトウェアの検証機能は随時アップデートされることがあり、またお客様はダウンロードを実行するよう求められる場合があります。検証では、本ソフトウェアがアクティベーションされており、正式にライセンス供与されていることを確認します。お客様は、検証によって本ソフトウェアの特定機能を使用したり追加の便宜を得たりすることができます。詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?linkid=39157 をご参照ください。

b. 有効性の確認中。本ソフトウェアは、ソフトウェアとデバイスに関する情報をマイクロソフトに送信します。こうした情報の中には、本ソフトウェアのバージョンとプロダクト キー、およびデバイスのインターネット プロトコル (IP) アドレスが含まれています。マイクロソフトは、これらの情報を利用してお客様の特定またはお客様への連絡を行うことはありません。本ソフトウェアを使用することにより、お客様はこうした情報の送信に同意されたものとします。確認の詳細、および有効性の確認中に送信される情報の詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?linkid=69500 をご参照ください。

c. 有効性の確認後に、本ソフトウェアに適切なライセンスが与えられていないことが判明した場合は、本ソフトウェアの機能に影響が出る可能性があります。たとえば、次のような可能性があります。

- ソフトウェアのアクティベーションを再度行う必要がある。または
- 適切にライセンスを取得したソフトウェアの複製を求めるアラームを受信する。
- お客様が本ソフトウェアの一部の機能を使用できないか、使い続けることができない。または
- マイクロソフトから特定の更新プログラムまたはアップグレードを取得できない。
- お客様は、マイクロソフトまたは正規マイクロソフト販売代理店からのみ、本ソフトウェアの更新プログラムまたはアップグレードを入手することができます。正規マイクロソフト販売代理店からの更新プログラムを入手する方法の詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?linkid=69502 をご参照ください。

6. 問題を起こす可能性のある危険なソフトウェア。Windows Defender を有効にすると、「スパイウェア」や「アドウェア」など、問題を起こす可能性のあるソフトウェアがコンピューターに存在しないか検索されます。問題を起こす可能性のあるソフトウェアが見つかった場合、そのソフトウェアを無視するか、無効にするか（隔離）、または削除するかを確認するメッセージが表示されます。既定の設定を変更していない限り、問題を起こす可能性のある危険なソフトウェアのうち「高」または「重大」と評価されるものは、スキャン後に自動的に削除されます。問題を起こす可能性のあるソフトウェアを削除するか、無効にする場合、次の点に注意する必要があります。

- コンピューターにある他のソフトウェアが動作しなくなる場合がある。
- コンピューターにある他のソフトウェアを使用するためのライセンスに抵触する場合がある。

本ソフトウェアを使用することで、問題を起こす可能性のあるソフトウェアではないソフトウェアも削除されたり、無効化されたりする可能性があります。

7. インターネットベースのサービス。マイクロソフトは、本ソフトウェアについてインターネットベースのサービスを提供します。マイクロソフトは、いつでもこのサービスを変更または中止できるものとします。

a. インターネットベースのサービスに関する同意。本ソフトウェアには、インターネットを介してマイクロソフトまたはサービス プロバイダーのコンピューター システムに接続する、以下の機能が含まれます。接続が行われた際、通知が行われない場合があります。お客様は、これらの機能を解除するか、または使用しないことができます。本機能に関する詳細情報については、go.microsoft.com/fwlink/?linkid=153765 の「Windows Home Server 2011 のプライバシーに関する声明」をご覧ください。これらの機能を使用することで、お客様のこの情報の送信に同意されたものとします。マイクロソフトは、これらの情報を利用してお客様の特定またはお客様への連絡を行うことはありません。
コンピューター情報。以下の機能はインターネット プロトコルを使用しており、お客様の IP アドレス、オペレーティング システムの種類、ブラウザの種類、使用している本ソフトウェアの名称およびバージョン、本ソフトウェアを実行するデバイスの言語コードなどのコンピューター情報を適切なシステムに送信します。マイクロソフトは、お客様にインターネットベースのサービスを提供するためにこの情報を使用します。

- プラグ アンド プレイの拡張。お客様は、使用するデバイスに新しいハードウェアを直接接続またはネットワーク経由で接続することができます。デバイスには、かかるハードウェアと通信するために必要なドライバーがインストールされていない場合があります。この場合、本ソフトウェアの更新機能により、マイクロソフトから適切なドライバーを取得し、お客様のデバイスにインストールすることができます。管理者は、この更新機能を解除することができます。

- Web コンテンツ機能。本ソフトウェアには、関連するコンテンツをマイクロソフトから取得し、お客様に提供する機能が含まれます。これらの機能は、コンテンツを提供するために、お客様のデバイスのオペレーティング システムの種類、使用している本ソフトウェアの名称およびバージョン、ブラウザの種類、ならびに本ソフトウェアを実行するデバイスの言語コードの情報をマイクロソフトに送信します。これらの機能の例としては、クリップ アート、テンプレート、オンライントレーニング、オンライン アシスタンス、および Appshelp が挙げられます。お客様は、これらの Web コンテンツ機能を使用しないことも選択できます。
- デジタル証明書。本ソフトウェアはデジタル証明書を使用しています。これらのデジタル証明書は、X.509 標準暗号化情報を使用し、インターネット ユーザーの身元を特定します。デジタル証明書をファイルやマクロの電子署名に使用して、ファイルの内容が損なわれていないことおよび作成元を証明することもできます。本ソフトウェアは証明書を取得し、証明書失効リストを更新します。このセキュリティ機能は、お客様がインターネットに接続した場合にはのみ作動します。
- Auto Root 更新。Auto Root 更新機能は、信頼できる証明機関のリストを更新するものです。お客様は Auto Root 更新機能を解除することが

できます。

- Windows Media デジタル著作権管理。コンテンツ権利者は、著作権を含む知的財産を保護する目的で、Windows Media デジタル著作権管理技術 (WMDRM) を使用しています。本ソフトウェアおよび第三者のソフトウェアは、WMDRM が保護するコンテンツを再生、複製する際に WMDRM を使用します。本ソフトウェアがコンテンツを保護できない場合、コンテンツ権利者がマイクロソフトに対して、保護されたコンテンツを WMDRM で再生または複製する本ソフトウェアの機能を無効にするよう要求することがあります。無効にされた場合も、その他のコンテンツは影響を受けません。お客様は、保護されたコンテンツのライセンスをダウンロードすることでマイクロソフトがライセンスに失効リストを含めることに同意したものとします。コンテンツ権利者は、お客様がコンテンツ権利者のコンテンツにアクセスする前に、WMDRM のアップグレードを要請することがあります。WMDRM を含むマイクロソフト ソフトウェアでは、アップグレードに先立ってお客様のご同意が求められます。アップグレードを行わない場合、お客様はアップグレードが必要なコンテンツにアクセスできません。お客様は、インターネットに接続する WMDRM 機能を解除することができます。この機能が解除されている場合でも、正規のライセンスを取得しているコンテンツを再生することは可能です。
- Windows Media Player。お客様が Windows Media Player を使用すると、マイクロソフトに対して 以下が確認されます。
  - お客様の地域において利用可能なオンライン音楽サービス
  - Windows Media Player の最新バージョン
  - コーデック（コンテンツの再生に必要なコーデックがデバイスにない場合）

最後の機能は解除することができます。詳細については、www.microsoft.com/windows/windowsmedia/player/11/privacy.aspx をご参照ください。

- 悪意のあるソフトウェアの削除。お客様がセットアップ時に「インストールの重要な更新プログラムの取得」を選択した場合、本ソフトウェアでは、特定のマルウェアがお客様のデバイスにインストールされていないかが確認され、お客様のデバイスから削除されることがあります。「マルウェア」とは悪意のあるソフトウェアを意味します。本ソフトウェアを実行すると、www.support.microsoft.com/?kbid=890830 に掲載され、更新されているマルウェアが削除されます。マルウェアの確認時に、検出されたマルウェア、エラーに関する特定の情報、およびお客様のデバイスに関するその他の情報についての報告がマイクロソフトに送信されます。この情報は、本ソフトウェアや、その他のマイクロソフト製品およびサービスの改善のために使用されます。これらの報告に含まれる情報を使用してお客様を特定したり、お客様に連絡したりすることはありません。お客様は、本ソフトウェアの報告機能を www.support.microsoft.com/?kbid=890830 に掲載されている手順に従って無効にすることができます。詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=113995 に記載されている「Windows 悪意のあるソフトウェアの削除ツールのプライバシーに関する声明」をご参照ください。

- ネットワーク認識。ネットワーク トラフィックのパッシブ モニタリングまたはアクティブ DNS（または HTTP）クエリにより、システムがネットワークに接続されているかどうかを判別されます。このクエリでは、ルーティングのための標準的な TCP/IP 情報または DNS 情報の送信のみを行います。お客様は、レジストリ設定により、このアクティブ クエリ機能を解除することができます。
- Windows タイム サービス。このサービスは、time.windows.com と週に 1 回同期することで、お客様のコンピューターの時刻を正確に設定するものです。お客様は、この機能をオフにすることができます。また、優先するタイム ソースを [日付と時刻] コントロール パネル アプリレットから選ぶこともできます。接続には標準の NTP プロトコルを使用します。
- IPv6 ネットワーク アドレス変換 (NAT) Traversal サービス (Teredo)。これは、既存の家庭用インターネット ゲートウェイ デバイスを IPv6 に移行させるための機能です。IPv6 は、次世代のインターネット プロトコルです。ピア ツー ピア アプリケーションで頻繁に必要となる、エンド ツー エンド接続を有効にするために役立ちます。これを実現するため、本ソフトウェアを起動するたびに、公開されている Teredo インターネット サービスの検索が Teredo クライアント サービスによって実行されます。インターネットを介してクエリを送信することでこのサービスを探します。このクエリは、標準の DNS（ドメイン ネーム サービス）情報のみを送信してお客様のコンピューターがインターネットに接続されているかどうかを判断し、パブリック Teredo サービスを探すことができます。たとえば、お客様が以下のいずれかを行っているとしす。

- IPv6 接続を必要とするアプリケーションを使用しているか、または
  - 常に IPv6 接続を有効にするようにファイアウォールを構成している場合、既定では、標準の IP（インターネット プロトコル）情報がマイクロソフトの Teredo サービスに定期的に送信されます。それ以外の情報はマイクロソフトに送信されません。この既定の設定を変更して、マイクロソフト以外のサーバーを使用することもできます。また、“netsh”というコマンドライン ユーティリティを使用して、この機能を無効にすることも可能です。
  - アクセラレーター。お客様がアクセラレーターを使用、クリック、またはマウスオーバーすると、現在の Web ページのタイトルおよび完全な Web アドレス (URL)、ならびに標準コンピューター情報およびお客様が選択したコンテンツが、サービス プロバイダーに送信されることがあります。お客様がマイクロソフトにより提供されたアクセラレーターを使用する場合は、送信される情報は go.microsoft.com/fwlink/?linkid=31493 で提供される「マイクロソフト オンライン プライバシーに関する声明」に準拠します。お客様が第三者により提供されるアクセラレーターを使用する場合は、送信される情報の使用は第三者のプライバシー ポリシーに準拠するものとします。
  - 検索候補サービス。Internet Explorer でクイック検索ボックスを使用するか、またはアドレス バーで検索用語の前に疑問符 (?) を入力して検索クエリを入力すると、入力に応じた検索候補が表示されます（ご使用の検索プロバイダーでサポートされている場合）。検索ボックスに入力したすべての語、またはアドレス バーに入力した疑問符 (?) より後のすべての語は、入力と同時に検索プロバイダーに送信されます。また、Enter キーを押すか、または [検索] ボタンをクリックすると、検索ボックスまたはアドレス バーにあるすべてのテキストが検索プロバイダーへ送信されます。お客様がマイクロソフトの検索プロバイダーを使用する場合、お客様から送信される情報は go.microsoft.com/fwlink/?linkid=31493 に掲載されている「マイクロソフト オンライン プライバシーに関する声明」に従って取り扱われます。お客様が第三者の検索プロバイダーを使用する場合、送信される情報の使用は第三者のプライバシー ポリシーに準拠するものとします。お客様は、いつでも [ツール] メニューにある [アドオンの管理] を使用して検索候補の表示をオフにすることができます。検索候補サービスの詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?linkid=128106 をご参照ください。

- Windows エラー報告。この機能はオプションであり、この機能を使用しないように選択することもできます。この機能を有効にすると、本ソフトウェアは、エラー報告を自動的にマイクロソフトに送信します。これらの報告には、本ソフトウェアで発生した問題に関する情報が含まれています。報告には個人情報が見えせずに含まれている場合があります。たとえば、コンピューターのメモリのスナップショットが含まれている報告には、お客様の名前が含まれていることがあります。作業中のドキュメントの一部が含まれている場合もあります。マイクロソフトが、この情報を使用してお客様を特定したり、お客様に連絡したりすることはありません。エラー報告の詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=31490 をご参照ください。

b. 情報の使用。マイクロソフトでは、ソフトウェアの改善およびサービスの向上を目的に、コンピューターの情報、アクセラレーターの情報、検索候補情報、およびマルウェア報告を使用します。また、ハードウェア ベンダーやソフトウェア ベンダーなど、他の企業と情報を共有する場合があります。これらの第三者は、マイクロソフト製ソフトウェアと連携して動作する自社製品の改良のため、この情報を使用することがあります。
c. インターネットベースのサービスの不正使用。お客様は、これらのサービスに損害を及ぼす可能性のある方法、または第三者によるこれらのサービスの不正使用を妨げる可能性のある方法で、これらのサービスを使用することはできません。また、サービス、データ、アカウント、またはネットワークへのアクセスを試みるためにこれらのサービスを使用することは一切禁じられています。
8. リモート WEB アクセス機能。お客様は、ご利用のプロードバンド プロバイダーのサービス条件を確実に遵守して、リモート Web アクセス機能を使用する責任を負うものとします。お客様は、リモート Web アクセス機能を使用するために、プロードバンド プロバイダーのサービスを追加することが必要な場合があります。たとえば、これらの機能を使用するには特定の「ポート」を開いておく必要がありますが、一部のプロードバンド プロバイダーでは、一部のサービス プランでこれらのポートを利用者に対し遮断しています。また、一部のプロードバンド プロバイダーは、サービス条件により、一部のサービス プランで一部の利用者に対しプロバイダーのネットワーク上での「サーバー」のセットアップおよび実行を制限または禁止している場合があります。プロードバンド プロバイダーのサービス条件に関するご質問については、ご利用のプロードバンド プロバイダーにお問い合わせください。

9. データ ストレージ テクノロジ。本サーバー ソフトウェアには、Windows Internal Database というデータ ストレージ テクノロジが使われています。サーバー ソフトウェアのコンポーネントは、データを格納する目的でこのテクノロジを使用します。本ライセンス条項では、上記以外の方法でこのテクノロジを利用またはアクセスすることが一切禁止されています。

10. MICROSOFT .NET のベンチマーク テスト。本ソフトウェアは、.NET Framework のコンポーネント（以下「.NET コンポーネント」といいます）を 1 つ以上含んでいます。お客様は、これらのコンポーネントの内部ベンチマーク テストを実施することができます。お客様は、go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=66406 に掲載されている条件に従うことによって、これらのコンポーネントのベンチマーク テストの結果を開示できます。マイクロソフトと別途の合意がある場合でも、お客様が当該ベンチマーク テストの結果を開示した場合、マイクロソフトは、go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=66406 に掲載されている条件と同じ条件に従うことを条件に、該当する .NET コンポーネントと競合するお客様の製品についてマイクロソフトが実施したベンチマーク テストの結果を開示する権利を有します。

11. ライセンスの適用範囲。本ソフトウェアは使用許諾されるものであり、販売されるものではありません。本ライセンス条項は、お客様に本ソフトウェアを使用する限定的な権利を付与します。製造業者またはインストール業者およびマイクロソフトは、その他の権利をすべて留保します。適用される法令により上記の制限を超える権利が与えられる場合を除き、お客様は本ライセンス条項で明示的に許可された方法でのみ本ソフトウェアを使用することができます。お客様は、使用方法を制限するために本ソフトウェアに組み込まれている技術的制限に従わなければなりません。詳細については、本ソフトウェア付属の文書を参照するか、製造業者またはインストール業者にお問い合わせください。お客様は、以下を行うことはできません。

- 本ソフトウェアの技術的な制限を回避して使用すること。
- 本ソフトウェアをリバース エンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルすること。ただし、適用される法令により明示的に認めら

れている場合を除きます。

- 別のオペレーティング システムまたは別のオペレーティング システムで実行されるアプリケーション内で本ソフトウェアのファイルおよびコンポーネントを使用すること。
- 本ライセンス条項で規定されている数以上の数の本ソフトウェアの複製を作成すること。ただし、適用される法令により認められている場合を除きます。
- 第三者が複製できるように本ソフトウェアを公開すること。
- 本ソフトウェアをレンタル、リース、または貸与すること。
- 本ソフトウェアを商用ソフトウェア ホスティング サービスで使用すること。
- 任意のデバイス上で本ソフトウェアにアクセスする権利は、当該デバイスにアクセスするソフトウェアまたはデバイスに関するマイクロソフトの特許またはその他の知的財産権行使する権利をお客様に付与するものではありません。
- バックアップ用の複製。お客様は、本ソフトウェア メディアのバックアップ複製を 1 つ作成することができます。バックアップ用の複製は、本ソフトウェアのインスタンスを作成する目的に限り使用することができます。
- ドキュメント。お客様のコンピューターまたは内部ネットワークに有効なアクセス権を有する者は、お客様の 内部使用目的に限り、ドキュメントを複製して使用することができます。
- 正規のライセンス証明書。お客様が本ソフトウェアを本サーバーにインストールされた状態、または CD-ROM またはその他のメディアで入手された場合、本ソフトウェアが正当に許諾されたものであることは、正規の Certificate of Authenticity ラベルが正規の本ソフトウェアの複製に付属されていることにより識別することができます。ラベルが有効であるためには、このラベルがサーバーに貼付、あるいは製造業者またはインストール業者の本ソフトウェア梱包に貼付または含まれていなければなりません。ラベルが本ソフトウェアの梱包とは別に提供されたものである場合、そのラベルは無効です。お客様が本ソフトウェアの使用許諾を受けていることを証明するため、ラベルをサーバーまたはパッケージに貼付したまにしてください。正規のマイクロソフト ソフトウェアを識別する方法については、www.microsoft.com/resources/howtotell/ja/default.mspx をご参照ください。

15. 第三者への譲渡。本ソフトウェアの最初のユーザーは、本ソフトウェアおよび本ライセンス条項を直接第三者に譲渡することができます。譲渡の前に、本ソフトウェアの譲受者は本ライセンス条項が譲渡および本ソフトウェアの使用に適用されることに同意しなければなりません。譲渡には、本ソフトウェアおよび「Proof of License」ラベルが含まれる必要があります。本ソフトウェアを譲渡したユーザーは、本ソフトウェアのライセンスを改めて取得しない限り、本ソフトウェアのインスタンスを保持することはできません。
16. H.264/AVC 規格、VC-1 規格、MPEG-4 規格、および MPEG-2 規格に関する注意。本ソフトウェアは、H.264/MPEG-4、AVC、VC-1、MPEG-4 Part 2、および MPEG-2 画質圧縮テクノロジーが含まれます。このテクノロジーについては、MPEG LA、L.L.C. により以下の注意書きを表示することが義務付けられています。

本製品は、消費者による個人使用および非商業的使用を前提とし、「I AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE」、[VC-1 PATENT PORTFOLIO LICENSE]、[MPEG-4 PART 2 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE]、[MPEG-2 VIDEO PATENT PORTFOLIO LICENSE] に基づいて次の用途に限ってライセンスされています。(i) 上記の規格（以下「ビデオ規格」といいます）に従ってビデオをエンコードすること、または (ii) 個人使用および非商業的活動に従事する消費者がエンコードした AVC、VC-1、MPEG-4 PART 2、および MPEG-2 ビデオをデコードする、ならびに、もしくは、かかるビデオを提供するライセンスを有するビデオ プロバイダーから取得したビデオをデコードすること。その他の用途については、明示か黙示かを問わず、いかなるライセンスも許諾されません。詳細については、MPEG LA、L.L.C. から入手できます。WWW.MPEGLA.COM を参照してください。

17. 輸出規制。本ソフトウェアは米国および日本国の輸出に関する規制の対象となります。お客様は、本ソフトウェアに適用されるすべての国内法および国際法（輸出対象国、エンド ユーザーおよびエンド ユーザーによる使用に関する制限を含みます）を遵守しなければなりません。詳細については www.microsoft.com/japan/exporting をご参照ください。

18. サポート サービス。サポート オプションについては、製造業者またはインストール業者にお問い合わせください。その際、サーバーと共に提供されるサポート番号をお知らせください。

19. 完全合意。本ライセンス条項（下記の品質保証規定を含みます）、ならびに追加ソフトウェア、更新プログラム、インターネットベースのサービス、およびサポート サービスに関する使用条件は、本ソフトウェアおよび サポート サービスについてのお客様とマイクロソフトとの間の完全な合意です。
20. 準拠法。

- 日本。お客様が本ソフトウェアを日本国内で入手された場合、本ライセンス条項は日本法に準拠するものとします。
- 米国。お客様が本ソフトウェアを米国内で入手された場合、抵触法にかかわらず、本ライセンス条項の解釈および契約違反への主張は、米国ワシントン州法に準拠するものとします。消費者保護法、公正取引法、および違法行為を含みますがこれに限定されない他の主張については、お客様が所在する地域の法律に準拠します。
- 日本および米国以外。お客様が本ソフトウェアを日本国および米国以外の国で入手された場合、本ライセンス条項は適用される地域法に準拠するものとします。
- 法的効力。本ライセンス条項は、特定の法的な権利を規定します。お客様は、地域や国によっては、本ライセンス条項の定めにかかわらず、本ライセンス条項と異なる権利を有する場合があります。また、お客様が本ソフトウェアを取得された第三者に関する権利を取得できる場合もあります。本ライセンス条項は、お客様の地域または国の法律がその法律に基づく権利の変更を許容しない場合、それらの権利を変更しないものとします。

22. 非フォールト トレラント。本ソフトウェアは、フォールト トレラントではありません。製造業者またはインストール業者は、本ソフトウェアをサーバーにインストールしており、本ソフトウェアのサーバー上で動作に責任を負うものとします。
23. 使用制限。マイクロソフト ソフトウェアは、フェール セーフ性能が不要なシステム用に設計されました。お客様は、本ソフトウェアの誤動作があった場合に人身傷害または死亡の予測できるリスクをもたらすサーバーまたはシステムで、マイクロソフト ソフトウェアを使用することはできません。これには、核施設、航空機のナビゲーションまたは通信システム、航空交通管制の操作が含まれます。
24. 本ソフトウェアの無保証。本ソフトウェアは、現状有姿のまま瑕疵を問わない条件で提供されます。本ソフトウェアの使用に伴うあらゆる危険は、お客様の負担とします。マイクロソフトは、明示的な瑕疵担保責任または保証責任を一切負いません。サーバーまたは本ソフトウェアに関してお客様が受けている保証は、マイクロソフトまたはその関連会社から与えられるものでなく、マイクロソフトまたはその関連会社がその保証による拘束を受けることはありません。地域の法令上許容される最大限において、製造業者、インストール業者、またはマイクロソフトは、商品性、特定目的に対する適合性、侵害の不存在に関する黙示の保証については一切責任を負いません。

25. 責任の制限および除外。製造業者またはインストール業者が提供する払い戻しを除き、その他の損害（派生的損害、逸失利益、特別損害、間接損害、または付随的損害を含みますがこれらに限定されません）に関しては、製造業者、インストール業者およびマイクロソフトは一切責任を負いません。

この制限は、以下に適用されるものとします。

本ソフトウェア、サービス、第三者のインターネットのサイト上のコンテンツ（コードを含みます）または第三者のプログラムに関連した事項 契約違反、保証違反、厳格責任、過失、または不法行為等の請求（適用される法令により認められている 範囲において）

また、以下のいずれかに該当する場合においても、この制限が適用されるものとします。本ソフトウェアの修理、交換、または返金を行ってもお客様が完全に補償されない場合 製造業者もしくはインストール業者またはマイクロソフトがこのような損害の可能性を認識していたか、または認識した場合 一部の地域では付随的、結果的損害の免責、または責任の制限が認められないため、上記の制限事項が適用されない場合があります。また、一部の国では付随的、派生的、およびその他の損害の免責、または 責任の制限が認められないため、上記の制限事項が適用されない場合があります。

EULAID:WS08R2\_RM\_0\_SHP\_OEM\_ja-jp

重要なお知らせ：ダウンロード、インストール、コピー、または使用の前に、製品利用に関する下記契約条件をお読みください。本製品をダウンロード、インストール、コピー、または使用することにより、お客様はこれらの条件に対する同意を表明したことになります。

## ソフトウェア使用に関するエンドユーザーライセンス契約

本ソフトウェア使用契約（以下「本契約」とします）は、Einsteinova 24, 851 01 Bratislavaに所在し、 プラチスラヴ第1 地方裁判所の有限会社部門（District Court Bratislava I, Section Sro）において掲載番号 39586/B, BIN: 31 333 539 として商業登記されている、 ESET, spol. s r. o.（以下「供給者」とします）と、自然人または法人であるお客様（以下「エンドユーザー」とします）と間で締結され、お客様は本契約の第1 条で定義する本ソフトウェアを使用する権利を付与するものです。本契約の第 1 条で定義する本ソフトウェアは、光記憶媒体への格納、電子メールでの送付、インターネット経由でのダウンロード、供給者のサーバからのダウンロード、または後述の条件および状況下におけるその他の供給元からの取得が行えます。

本契約は購入契約ではなく、エンドユーザーの権利に関する合意事項を定めるものです。供給者は、本ソフトウェアのコピーおよびこれが商業包装にて供給される物理的媒体（存在する場合）のほか、本契約に基づきエンドユーザーが権利を付与される本ソフトウェアのすべてのコピーの、所有者であり続けます。

ダウンロード、インストール、コピー、または使用時に [ 同意します (I Accept) ] ボタンをクリックすることで、お客様は本契約の条項および条件に対し同意を表明したことになります。本契約の条項のいずれかに同意しない場合は、速やかに [ 拒否 (Decline) ] または [ 同意しません (I Do Not Accept) ] ボタンをクリックし、ダウンロードまたはインストールをキャンセルして、本ソフトウェア、インストール媒体、基礎ドキュメントを破棄、またはこれらを ESET もしくは本ソフトウェアの購入先へ返却してください。

お客様には、本ソフトウェアを使用することにより、お客様が本契約を読了かつ理解し、本契約条項による拘束に同意したことになると承していただきます。

1. 本ソフトウェア
本契約に記載の本ソフトウェアとは、(i) コンピュータプログラム ESET NOD32 Antivirus（すべての部品を含む）と、(ii) 光記憶媒体上のオブジェクトコードの形態で、またはインターネットを経由した電子メールによって、供給される本ソフトウェアを含むディスク、光記憶媒体、電子メールによる通知およびそのすべての添付ファイル（存在する場合）、または本契約が添付されているその他の媒体のコンテンツと、(iii) 本ソフトウェアに関する何らかの説明、仕様、特性の説明、耐障害の説明、本ソフトウェアが使用される際のインターフェイスの説明、本ソフトウェアのマニュアルもしくはインストール手順書、または本ソフトウェアの正しい使用に関する何らかの説明など、本ソフトウェアに関連する一切の説明資料および一切のドキュメント（以下「本件ドキュメント」とします）と、(iv) 本ソフトウェアのコピー、本ソフトウェアにエラーが存在する場合はその修正、本ソフトウェアへの追加、本ソフトウェアの拡張、本ソフトウェアの改変バージョン、本ソフトウェアの新バージョン、および本ソフトウェア製品すべてのアップグレード（供給された場合）とを意味し、これらに関連して供給者はお客様に本契約の第 4 条に基づくライセンスを付与します。供給者は本ソフトウェア、実行コードの形態においてのみ供給するものとします。

2. 供給者への侵入プログラムおよび情報の転送
本ソフトウェアには、新型のコンピュータウイルス、その他の類似する有害なコンピュータプログラムおよび不審なファイルや問題のあるファイル（以下「侵入プログラム」とします）のサンプルを、本ソフトウェアがインストールされているコンピュータおよび / またはプラットフォームに関する情報（以下「本件情報」とします）を含めて収集し、その後供給者に送信する機能が搭載されています。本件情報には、エンドユーザーおよび / または本ソフトウェアがインストールされているコンピュータのその他のユーザに関するデータ（個人データを含む）、コンピュータ、インストールされているオペレーティングシステムおよびプログラムに関する情報、本ソフトウェアがインストールされているコンピュータ上のファイルおよび侵入プログラムの影響を受けたファイル、ならびに当該ファイルに関する詳細情報が含まれていることがあります。供給者は、得られた本件情報および侵入プログラムを、侵入プログラムの検査のみ使用するものとし、得られた本件情報を秘密に保つために、妥当な対策を行うものとします。お客様が本契約に同意し、本ソフトウェアの上記機能を有効にした場合、お客様は侵入プログラムと本件情報が供給者に転送されてもよいと同意し、かつ同時に、得られた本件情報を処理するために関連する法的規制に従って必要とされる承諾を、供給者に与えたことになります。

3. インストール
光記憶媒体で供給される、電子メールで送付される、インターネットからダウンロードされる、供給者のサーバからダウンロードされる、またはその他の供給元から取得される本ソフトウェアには、インストールが必須であるものとしています。お客様は本ソフトウェアを、少なくとも本件ドキュメントに記載の要件を満たしている、正しく設定されたコンピュータ上にインストールする必要があります。インストールの態様は、本件ドキュメント内に明記されています。本ソフトウェアに対して好ましくない影響を及ぼす可能性があるコンピュータプログラムまたはハードウェアを、本ソフトウェアのインストール先コンピュータ上に導入してはなりません。

4. ライセンス
お客様が本契約書に同意しており、第 17 条に基づくライセンス料を支払い期日に支払うことを前提として、供給者はお客様に対し、コンピュータのハードディスクまたは類似するデータの永久記憶用媒体へ本ソフトウェアをインストールし、コンピュータシステムのメモリへ本ソフトウェアをインストールおよび格納し、コンピュータシステム上で本ソフトウェアを格納および表示する、非独占的かつ譲渡禁止の権利を付与します（以下「ライセンス」とします）。

5. エンドユーザの権利行使
お客様は、エンドユーザーの権利を、直接またはお客様の被雇用者（存在する場合）を通じて行使する必要があります。お客様はエンドユーザーとして、自らの活動を確実なものとするためにのみ、およびお客様がライセンスを取得してそれに対する支払いを行ったコンピュータシステムを保護するためにも、本ソフトウェアを使用できます。

6. エンドユーザーの権利の制限
下記を除く事項に従い、お客様は本ソフトウェアのコピー、配布、部品の分離、または派生バージョンの作成を行ってはなりません。(a) お客様は自分用に、データの永久記憶用媒体上に本ソフトウェアのコピーを 1 つ、バックアップコピーとして作成できます。ただし、この保管用のバックアップコピーは、いかなる他のコンピュータ上でもインストールまたは使用してはなりません。それ以外で、本ソフトウェアのコピーを作成することは、本契約に対する違反となります。(b) 本契約に規定されている以外のいかなる態様でも、本ソフトウェアまたは本ソフトウェアのコピーの使用、改変、複製、または使用権の譲渡を行ってはなりません。(c) 本ソフトウェアの売却、サブライセンス付与、他人への賃貸もしくは他人からの賃貸、または本ソフトウェアの貸与を行うことは禁じられています。(d) 本ソフトウェアの分析、逆コンパイル、またはソースコードの逆アセンブルを行ったり、ソースコードを取得しようとしたりしてはなりません。ただし、そのような制限を

設けることが法律によって明示的に禁止されている範囲内においては、この限りではありません。

(e) 本ソフトウェアに基づくいかなる派生物も、作成してはなりません。(f) お客様は、著作権法およびその他の知的財産権から生じる、適用可能な制限など、本ソフトウェアを使用する際の法律におけるすべての適用可能な法的規制に従う態様においてのみ、本ソフトウェアを使用するのことに同意することとします。(g) お客様は、試用版または再販不可品 (Not-For-Resale ) 以下「NFR」とします) として入手した本ソフトウェアを、第 17 条に基づくライセンス料の支払いを回避する目的で、道徳に反して使用してはなりません。

7. 著作権
本ソフトウェアおよび、これに含まれる法的所有権および知的財産権などのすべての権利は、ESET および / または ESET のライセンス供給者の財産です。これらは国際条約の規定と、本ソフトウェアが使用される国のその他のすべての適用法によって、保護されます。本ソフトウェアの構造、編成、およびコードは、ESET および / または ESET のライセンス供給者の企業秘密および秘密情報です。お客様は、第 6 条 (a) に当ってはまる場合を除いて、本ソフトウェアをコピーすることはできません。本契約に基づき、お客様が作成するコピーはすべて、本ソフトウェア上に明示されているものと同一の著作権表示および法的所有権表示を含んでいなければなりません。お客様が分析、逆コンパイル、またはソースコードの逆アセンブルを行ったり、本契約の規定に違反するその他の何らかの態様でソースコードを入手しようとしたりした場合も、それによって得られたいかなる情報も、それが発生した瞬間からすべて、自動的にかつ取り消しできない形で供給者に譲渡され、供給者の所有であることみなされるものとします。

8. 権利の留保
本ソフトウェアに対する権利は、本契約において本ソフトウェアのエンドユーザーとしてのお客様に明示的に付与されたものを除き、すべて供給者自身が留保します。

9. 複数言語対応バージョン、マルチオペレーティングシステム対応バージョン、複数コピー
本ソフトウェアが複数のプラットフォームまたは言語をサポートしているか、お客様が本ソフトウェアのコピーを多数入手した場合、お客様は自分が注文書に明記し、本契約の第 17 条に基づく関連のライセンス料を支払った数よりも多くのコンピュータシステムに、本ソフトウェアの各バージョンおよびコピーをインストールすることはできません。またお客様が使用していない本ソフトウェアのいかなるバージョンまたはコピーも、他者を相手に売却、賃貸、賃借、サブライセンス付与、貸与、または譲渡してはなりません。

10. 本契約の開始および期間
本契約は、本ソフトウェアのインストール初日から有効となります。お客様は、供給者またはそのビジネスパートナーから入手した本ソフトウェア、すべてのバックアップコピー（存在する場合）、およびすべての関連資料を、永久的に削除、破棄、または自費で返却することにより、本契約を終了できます。お客様が本契約条項のいずれかを遵守できなかった場合、お客様のエンドユーザーとしての権利は、供給者からのいかなる通知もなしに、自動的かつ直ちに抹消されます。そのような場合、お客様は本ソフトウェア、すべてのバックアップコピー（存在する場合）、およびすべての関連資料を、速やかに削除、破棄、または ESET もしくは本ソフトウェアの入手先に自費で返却しなければなりません。本契約は、本ソフトウェアの注文書にお客様が明記した期間のとおりに、1 年もしくはそれ以上履行され、お客様がライセンス延長のために本契約の第 17 条に基づくライセンス料を支払うことを条件に、さらに 1 年もしくはそれ以上の期間延長を、繰り返し行うことができます。本契約の終了の態様に関係なく、第 7 条、第 8 条、第 11 条、第 13 条、および第 20 条の規定は、無期限に有効であり続けるものとします。

11. エンドユーザの表明
お客様はエンドユーザーとして、本ソフトウェアが明示または暗黙のいかなる種類の保証も伴わず、適用法によって許可される最大限の範囲において、「現状のまま」提供され、供給者、そのライセンス供給者、または著作権保持者のいずれも、明示的であるか暗黙的であるかを問わずいかなる保証の表明も行わないこと、特に、販売保証もしくは特定の目的適合性の保証、または本ソフトウェアが第三者のいかなる特許権、著作権、商標権もしくはその他の権利をも侵害していないという保証の表明を行わないことを、承認します。供給者もその他の関係者も、本ソフトウェアに含まれる機能がお客様の要求に沿うこと、または本ソフトウェアの動作が円滑でエラーのないものであることの保証は行いません。お客様は、意図する結果に到達するための本ソフトウェアの選択、および本ソフトウェアのインストール、使用、および本ソフトウェアで達成される結果について、完全に責任とリスクを負うこととなります。

12. さらなる義務の否定
本契約で具体的に列挙される義務以外に、本契約が供給者側に対して課す義務はありません。

13. 保証の制限

適用法によって許可される最大限の範囲において、いかなる場合も供給者、その被雇用者、またはそのライセンス供給者は、どのような態様で発生したものであろうと、契約、意図的な違法行為、怠慢または責任の発生を定めるその他の事実のいずれに起因するものであるかを問わず、本ソフトウェアを使用したことにより、または本ソフトウェアが使用できないことにより発生した、利益、収益もしくは売り上げの損失、または何らかのデータ損失、または予備の物品もしくはサービスの調達にかかった費用、物的損害、人的損害、事業の中断、企業情報の損失、またはあらゆる特別損害、直接損害、間接損害、事故による損害、経済的損害、補填損害、犯罪による損害、もしくは後続損害について、責任を負わないものとします。これは、たとえ供給者またはそのライセンス供給者がそのような損害の可能性について通知を受けていた場合であっても同様です。ある特定の国およびある特定の法律においては、責任の排除が許可されず、しかし責任の制限は許可され得るため、供給者、その被雇用者、またはそのライセンス供給者の賠償責任額は、お客様がライセンスの対価として支払った金額を限度とします。

14. 本ライセンス契約の適用の制限
本契約に記載のいかなる条項も、法律によって消費者としての権利および立場が認められている関係者の権利に影響を及ぼすことはありません。供給者は、供給者自身、その被雇用者、およびそのライセンス供給者のために、第 13 条に記載の義務、責任および保証の拒否、除外または制限を目的とした行動をとるものとします。ただし、これ以外の目的またはこれ以外の事柄については、この限りではありません。

15. サポート
供給者は、本ソフトウェアの最新バージョンに対する技術サポートを確実に提供するものとします。ただし技術サポートは製品が購入された国の言語でのみの提供です。ライセンス期間全体にわたって、エンドユーザーは以下のサービスを使用する権利を有するものとします。(a) 技術的支援
供給者またはそのビジネスパートナーは、公表されている営業時間を通して、本ソフトウェアの最新バージョンを使用するにあたってのトラブルシューティングおよびデバッグについて、支援およびサポートを確実に提供するものとします。営業時間外に受けた支援およびサポート要請はすべて、翌営業日に受け付けられたことみなされるものとしま。供給者への支援およびサポート要請の応達は、本件ドキュメントまたは供給者もしくはそのビジネスパートナーの Web サイトに明記されている専用の電話番号または電子メールアドレス宛てに、電話、ファクシミリ、または電子メールを使って行うことができます。支援およびサポート要請は、十分に明確であり、かつ報告された問題の再現を可能にするデータを含んでいなければなりません。必要に応じて、エンドユーザーには、報告された問題の解決にあたって不可欠な援助を提供する義務があるものとします。(b) アップデート
アップデートには、本ソフトウェアまたはその個々の部品の新バージョンまたは変更点が含まれるものとし、供給者はこれを自社 Web サイトまたはビジネスパートナーの Web サイトで公開するものとします。供給者はアップデートを、インターネットのネットワークを通じて、Web サイト内の保護された領域から、エンドユーザーにとってアクセス可能にしなければなりません。アップデートにアクセスするには、ユーザ名およびパスワード（以下「識別情報」とします）が必要であるものとします。エンドユーザの識別情報は、半角英数字のランダムな組み合わせから成り、供給者のビジネスシステムにより自動生成されるものとします。識別情報は、電子メールのメッセージ形式、ライセンス製品の商業包装への封入、または他の適切な態様で、エンドユーザーに伝達されるものとします。エンドユーザは、破損、紛失、または悪用から識別情報を保護する義務があるものとします。初めエンドユーザー識別情報が悪用されたことが発覚した時点で、供給者は元の識別情報の機能を停止し、エンドユーザに新しい識別情報（以下「代替識別情報」とします）を発行するものとします。エンドユーザには、識別情報の悪用に関する調査において供給者が要求するすべてのデータ（コンピュータシステムの操作記録、ファイルへのアクセス記録、およびその他の必要なデータへのアクセスを含むが、これらに限定されない）を、供給者に提供する義務があるものとします。代替識別情報の悪用が発覚した場合、供給者は自己裁量に基づき、エンドユーザーに新しい代替識別情報を発行するか、エンドユーザーに対するいかなる補償もなしに直ちにライセンスを取り消すことができます。損害補償に対する供給者の権利は、ライセンスの即時取り消しによって影響されることはありません。エンドユーザは、供給者またはその契約パートナー（以下「正規供給元」とします）の Web サイトからのみ、アップデートを入手する義務があるものとします。エンドユーザは、ライセンス製品の各新バージョンまたは変更点を、入手後すぐに、または本ソフトウェア、本件ドキュメント、または供給者もしくはそのビジネスパートナーの Web サイトにおいて明記されている時点以前に、インストールすることに同意することとします。供給者は、本ソフトウェアの各新バージョンまたは変更点のインストール義務にエンドユーザが違反したこと、および / または正規供給元以外の供給元からアップデートをインストールしたことにより発生した損害については、責任を負わないものとします。

(c) サポートの否定
供給者は、特に報告されたエラーが以下に当てはまる場合には、いかなるサポート提供義務をも負わないものとします。i. 本ソフトウェアもしくはそのソースコードに対する何らかの不正な干渉の結果、または本ソフトウェアにおける不正なパラメータもしくは設定を用いた結果、生じたエラー、ii. 本件ドキュメントに準拠しない形で本ソフトウェアの使用によって生じたエラー、iii. エンドユーザーがインストールできていないアップデートの発行によって、すでに解決されているエラー、iv. エンドユーザが、本契約の第 17 条に基づくライセンス料の支払いを怠っているために生じたエラー、または v. 本契約で別段の規定がなされているエラー。(d) トレーニング
本契約によって、本ソフトウェアの使用およびインストールにあたってのトレーニングおよび練習に関連するサービス提供を得る権利がエンドユーザーに生じることはないものとします。

16. エンドユーザの変更
エンドユーザは、本契約から生じたライセンスおよびすべての権利を、別のエンドユーザに譲渡できます。ただしこれは、供給者の同意が得られており、かつ新しいエンドユーザが、本契約に基づき元のエンドユーザーが付随しているすべての権利および義務を引き継ぐことを表明している場合に限りま。

17. ライセンス料および支払い条件
本ソフトウェアはライセンス供与されるのであって、販売されるわけではありません。本ソフトウェアのライセンス料は、本ソフトウェアの指定対象であるコンピュータシス

テムの数に応じて、供給者またはそのビジネスパートナーによる価格リストに基づき、明記されるものとします（以下「ライセンス料」とします）。ライセンス料の支払い時に、お客様は本ソフトウェア使用権獲得の対象となった期間全体にわたって、本契約条件に従い、本ソフトウェアを使用する資格を与えられるものとします。供給者またはそのビジネスパートナーによって発行された、請求書またはその他類似の書類において、別の支払い日が明記されていない限り、ライセンス料は、本ソフトウェアの引き渡し手に支払われなければならないません。お客様は、供給者の所得税を除く、適用法によって規定されている本ソフトウェアのライセンス提供に関連する税および関税納入の遂行責任を負うものとします。支払日までにはライセンス料を支払えなかった場合、本ソフトウェアに対するお客様のライセンスは、自動的に取り消され、弁護士費用および裁判費用を含む、受け取るべき料金の回収に関連するすべての費用を、お客様に支払っていただくこととします。ライセンス料の支払い義務は、NFR または試用版として提供された本ソフトウェアには適用されないものとします。

18. NFR および試用版
お客様は NFR または試用版として供給された本ソフトウェアを、本ソフトウェアの機能を検査およびテストするためにのみ使用できます。また、NFR の本ソフトウェアは、デモンストレーション目的で使用することもできます。

19. エンドユーザに関するデータおよび権利の保護
お客様はエンドユーザーとして、供給者がお客様を識別できるデータを転送、処理、および保存する権限を、供給者に付与することになります。お客様は、供給者が独自の手段を用いて、お客様が本ソフトウェアを本契約の規定に従って使用しているかどうかを確認できることに同意するものとします。お客様は、本ソフトウェアが供給者またはそのビジネスパートナーのコンピュータシステムと通信することによって、データが転送されることで、その目的は本ソフトウェアの機能および使用権限の保証と、供給者の権利の保護であることに同意するものとします。

20. 輸出および再輸出に関する遵守
本ソフトウェア、本件ドキュメントまたはその各部（本ソフトウェアおよびその各部品に関する情報を含む）は、適用法に基づき管轄政府によって発行され得る法的規制に従い、輸入および輸出を監視するための方策下に管轄されるものとします。お客様は、適用されるすべての輸入および輸出規制の厳守に同意し、本ソフトウェアの輸出、再輸出、移送、または輸入に関するライセンス取得については、お客様が責任を負わなければならないことを承諾することとします。

21. 通知
すべての通知、返却される本ソフトウェアおよび本件ドキュメントは、スロバキア共和国 Aupark Tower, 16th floor, Einsteinova 24, 851 01 Bratislava, 所在の ESET, spol. s r. o. およびビジネスパートナーに送達する必要があります。

22. 準拠法

本契約は、スロバキアの法律に準拠し、これに従って解釈されるものとします。エンドユーザおよび供給者は、準拠法と国際物品売買契約に関する国連条約との間で矛盾する規定については、これを適用しないことに同意します。お客様は、いかなるクレームもしくは供給者との紛争に関する専属管轄権も、または本ソフトウェアをお客様が使用することによるいかなる形で関わる専属管轄権も、スロバキア共和国プラチスラヴ第 1 地方裁判所に属することに明示的に同意し、さらに、いかなる当該紛争またはクレームとの関連についても、プラチスラヴ第 1 地方裁判所における対人管轄権の行使に同意し、明示的にこれを承諾します。

23. 一般条項
本契約の条項のいずれかが無効または履行不能である場合、これが本契約のその他の条項の有効性に影響を及ぼすことはないものとします。これらその他の条項は、本契約に定める条件に基づき、引き続き有効かつ履行可能であるものとします。本契約に対するいかなる修正も、書面によってしか行うことができず、当該修正には、供給者を代表して法定代理人が署名を施さなければなりません。お客様および供給者間で締結される本契約は、本ソフトウェアに適用される単独かつ完全な合意を表すものであって、本ソフトウェア関連情報についての従前のいかなる表明、交渉、義務、報告、または広告にも取って代わるものとして。

## VVAULT ソフトウェア使用許諾契約書

本ソフトウェアの使用者（以下、「甲」といいます）は、甲がインストール済製品の電源を投入することにより、株式会社オレガ（以下、「乙」といいます）が使用許諾権を有するプログラム（以下、「本プログラム」といいます）及び運用マニュアル等の関連資料（以下、「本件資料」といいます。本件プログラムと本件資料を合わせて「本件ソフトウェア」といいます。）についての使用許諾契約を締結するものとします。

**第1条** （使用権の範囲）  
乙は、甲に対して、乙が用意する本プログラム稼動のための単一のコンピュータシステム（以下、「本件システム」といいます）の下、及び日本国内で使用することを条件として、本件ソフトウェアの非独占的使用権を許諾します。

**第2条** （確認事項）  
本契約の締結にあたり、甲は、乙又は乙の販売代理店等（以下、「ライセンサー」といいます）から本プログラムについての機能上の説明を、口頭、資料、実演等により十分受けたことを確認します。

**第3条** （提供物件）  
乙は、甲に対して本件ソフトウェアを、あらゆる種類の保証無く現状のまま提供します。また、乙は商品性及び特定目的への適合性に関する暗示的保証を含めて、明示的及び暗示的な一切の保証を行いません。

**第4条** （本契約の有効期間）  
本契約は、本契約所定の条件に従い本契約が終了するまで有効に存続します。

**第5条** （対価）  
甲は乙に対し、本契約第1条の使用権許諾の対価（以下、「本対価」といいます）を、別途甲乙、若しくは甲ライセンサー間で定める金額及び条件によって支払うものとします。

2. 前項の本対価の支払い条件には、ライセンサー及びリース会社等との本契約当事者以外の者（以下、「第三者」といいます）を経由する支払を含みます。但し、その場合、乙が本対価を受領した時をもって支払いが完了したものとします。

3. 本対価は、本契約に定めが有る場合を除き、いかなる理由によっても返還されないものとします。

**第6条** （保守サービス）  
乙は甲に対して、乙が別途用意するカスタマーサポートサイト（以下、「サポートサイト」といいます）を通じて、本件ソフトウェアの不具合の補修や使用方法の改良などについての情報を提供します。但し、サポートサイトの提供は本件ソフトウェアの不具合の修正を保証するものではありません。
2. 甲はサポートサイトを通じて入手した最新の本件ソフトウェアを、本契約に基づいて本契約と同じ条件で使用することができます。この場合、古い本件ソフトウェアについての使用権は終了し、甲は第14条に定める処置をとらなければなりません。

**第7条** （著作権）  
乙は本件ソフトウェアの著作権者であり、本件ソフトウェアが第三者の著作権等を侵害していないことを、甲に対して保証します。

2. 本プログラムは、本件ソフトウェアの配賦パッケージに含まれるGNU LESSER General Public License（LGPL）等のオープンソースソフトウェア（以下、「OSS」といいます）と連動して動作するものです。配布されたOSSの著作権及び使用許諾については、配賦製品内の各OSSの著作権表記をご確認下さい。

**第8条** （免責）  
乙による故意または重大失の場合を除き、本件ソフトウェアの使用に起因する一切の損害について、乙は一切の責任を負いません。

2. 本件ソフトウェアを使用する際、用いるデータのバックアップを確保する責任は甲にあるものとし、本件ソフトウェアの使用に起因するデータの喪失について、乙は一切の責任を負いません。

**第9条** （禁止事項）  
甲は、乙の書面による承諾を得ない限り本件ソフトウェアの全部または一部について、次の行為をしてはなりません。
① 第三者に本件ソフトウェアを譲渡すること
② 本契約に基づく使用許諾権を譲渡すること
③ 有償、無償を問わず第三者に本件ソフトウェアを貸与すること、又は使用させること
④ 本件ソフトウェアのアイデア、コンセプト、技術上の機密を第三者に開示すること
⑤ 第10条に定める場合を除き、本件ソフトウェアを複製、変更、翻案等すること
⑥ 本件ソフトウェアに付された乙が著作権者である旨の表示を廃棄、消去等すること
⑦ 本件ソフトウェアをリバースエンジニアリングすること
⑧ 本件ソフトウェアを第三者に担保として提供すること

**第10条** （本件ソフトウェアの複製）  
甲は、本プログラムについて、本件ソフトウェアの破損等に備えるために保有する目的に限り、機械が読み取れる形で本件ソフトウェアの全部または一部を1つに限り複製することができます。

2. 前項の複製物を、本件システム以外の別のコンピュータシステムで追加的に使用する場合には、新たに本件ソフトウェアについての別の使用許諾契約を締結しなければなりません。

3. 本契約が終了した場合、甲は、本条第1項の複製物についても第14条に定める処置をとらなければなりません。

**第11条** （運用責任）  
甲は、本プログラム等の使用につき、下記の事項を含め、一切の管理監督の責任を負

記
① 本プログラムを正常に稼動させるための機械の維持管理
② 本プログラム及び機械の不稼動、不完全稼動にそなえた代替処理方法、バックアップ対策の確立並びに対応要員の確保

**第12条** （契約終了後の措置）  
本契約が終了した場合、終了原因のいかんを問わず、甲は、本契約終了の日から30日以内に本件ソフトウェア及びその複製物を破棄しなければなりません。

2. 本契約終了の終了原因及び終了時期のいかんを問わず、甲は、本件ソフトウェアの使用料の返還を求めることはできません。

**第13条** （機密保持）  
乙は、本契約の締結に関連して知り得た甲の技術、財務、生産、営業等の機密を保持する義務を負います。

2. 甲は、本件ソフトウェアについてのアイデア、ノウハウ等の技術的機密について保持する義務を負います。

3. 前二項の規定は、本契約の終了後も有効に存続します。

**第14条** （権利義務の譲渡禁止）  
甲及び乙は、互いに相手方の事前の書面による同意なくして、本契約の地位を第三者に承継させ、あるいは本契約から生じる権利義務の全部又は一部を第三者に譲渡し若しくは引き受けさせ又は担保に供してはなりません。

**第15条** （解約）  
甲及び乙は、相手方が次の各号の一つにでも該当した場合、何らの催告を要せず本契約を将来に向かって解除することができます。
① 本契約のいずれかの条項に違反し、相当期間内に改善されない場合
② 支払いの停止又は仮差押さえ、差押さえ、競売、破産、民事再生手続又は会社更生手続、会社整理開始、特別清算開始の申し立てがあったとき

**第16条** （管轄裁判所）  
本契約に関する訴訟については東京地方裁判所をもって専属的合意管轄裁判所とします。

**第17条** （一般条項）  
いずれの当事者も、天災地変、労働争議、暴動、戦争行為、法律の制定・改廃、その他その合理的支配を越える事由により本契約上の義務の履行が遅滞あるいは不可能となった場合、それにより相手方に生じた損害については免責されます。

2. 本契約は、本件ソフトウェアの使用権の許諾に関する甲乙間の唯一の合意を構成します。本契約の締結の前後を問わず、甲乙間で本契約と異なる合意が為された場合においても、当該合意が本契約書を明確に特定した書面に証されない限り、当該合意は何ら効力をもたないものとします。

3. 本契約に定めのない事項及び本契約の各条項に疑義を生じた事項については、甲、乙信義誠実の原則に基づいて協議し、円満に解決するものとします。

以上

## 【ご注意】

- 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。したがって、別段の定めが無い限り、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
- 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関する設備や機器、及び海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意事項です。
- 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
- 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により輸出規制製品に該当する場合があります。国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
- 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。

- Windows<sup>®</sup> は、Microsoft<sup>®</sup> Windows<sup>®</sup> operating system の略称として表記しています。
- Windows Vista<sup>®</sup> は、Microsoft<sup>®</sup> Windows Vista<sup>®</sup> operating system の略称として表記しています。
- Microsoft<sup>®</sup>、Windows<sup>®</sup>、Windows Vista<sup>®</sup> は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。
- 一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

HDL-Z2WH シリーズ管理マニュアル 2011.11.4

発行 株式会社アイ・オー・データ機器

## 74

デジタルライフの夢を拓ける  
株式会社 **アイ・オー・データ機器**  
本社サポートセンター：〒920-8513 石川県金沢市板田町2丁目84番地  
ホームページ：<http://www.iodata.jp/support/>